NEC
NECソリューションイノベータ

InfoCage FileShell

Ver 6.3

リリースメモ

2023 年 12 月

NEC ソリューションイノベータ株式会社

InfoCage

ごあいさつ

このたびは、InfoCage FileShell をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書では、「InfoCage FileShell インストール CD」の内容、添付されているマニュアルの紹介およびモジュールの概要についてご説明いたします。本書に記載されている内容をご確認の上、InfoCage FileShell をご利用ください。

使用上の留意点

製品の使用上の留意点は、注意制限事項の章に記載しています。

備考

(1) 本書の内容の一部または全部を、無断で転載することは禁止されています。
(2) 本書の内容は、将来改良のために予告無しに変更することがあります。
(3) 本書の内容は、万全を期して作成しております。万一、ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
(4) 運用した結果の影響については、(3)項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。

InfoCage は NEC ソリューションイノベータ株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Adobe Acrobat Reader は、Adobe Systems Incorporated(アドビ システムズ社)の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Box は、米国およびその他の国における Box, Inc. および/またはその関連会社の登録商標です。

その他記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

用語の定義

本書で使用されている用語については、管理者ガイドの「用語の定義」をご参照ください。

目次

用語の定義 II
1. インストール CD について 1
2. ライセンスについて 2
3. システム要件 3
4. マニュアルについて 4
5. 導入の流れ 6
6. 導入する前に 7
7. 機能概要 8
8. 機能概要（過去バージョン） 11
9. 注意・制限事項 39

1. インストール CD について

InfoCage FileShell インストール CD には以下のものが含まれています。

- InfoCage FileShell Ver 6.3 クライアント
- InfoCage FileShell Ver 6.3 サーバー
- InfoCage FileShell Ver 6.3 ツール（SDK等）
- マニュアル(PDFファイル※1)
  - InfoCage FileShell インストールガイド
  - InfoCage FileShell 管理者ガイド
  - InfoCage FileShell クライアント利用ガイド
  - InfoCage FileShell SDK 利用ガイド
  - InfoCage FileShell クライアントAPI 利用ガイド
  - InfoCage FileShell バックアップツールコマンド 利用ガイド
  - InfoCage FileShell 巡回ツールコマンド 利用ガイド
  - InfoCage FileShell NEC File Protection Edition 管理者ガイド※2
  - InfoCage FileShell NEC File Protection Edition 利用ガイド※2
  - InfoCage FileShell 画像ビューアー 利用ガイド
  - InfoCage FileShell プロテクタ for NIAS 利用ガイド
  - InfoCage FileShell リリースメモ(本書)

InfoCage FileShell インストール CD の構成は以下のとおりです。

フォルダー・ファイル名	説明
Client (フォルダー)	クライアントのインストールに必要なファイル(クライアントインストールパッケージ)が格納されています。 クライアントインストールパッケージには、下記の種類があります。運用にあわせてご使用ください(詳細は、「5.導入の流れ」をご参照ください)。 ・ ¥icfclient_rms RMS/MIP のみを利用する環境、および NFP と RMS/MIP の利用を併用する環境で使用します。 ・ ¥icfclient_nfp NEC File Protection Edition(NFP)※2 のみを利用する環境で使用します。
Server (フォルダー)	サーバーのインストールに必要なファイルが格納されています。
Tools (フォルダー)	InfoCage FileShell のツールが格納されています。
Manual (フォルダー)	InfoCage FileShell のマニュアルとリリースメモが格納されています。
Redistribution(フォルダー)	再頒布ソフトウェアおよびライセンステキストが格納されています。

※1 PDF ファイルの参照には、Adobe Acrobat Reader が必要です。
※2 NEC File Protection Edition は、RMS 基盤を使用せず、NEC 独自の方式により「文書の保護」や「利用の制限(権限による制御)」などを行います。

2. ライセンスについて

FileShell クライアントのインストールを行う場合は、**利用するユーザー数分の InfoCage FileShell ベースライセンスをご購入ください**。

また、NEC File Protection Edition を使用する場合は、上記のライセンスの他に、InfoCage FileShell NEC File Protection Edition ライセンスが**別途必要です。**

3. システム要件

InfoCage FileShell のシステム要件については、下記マニュアルの「動作環境について」の項目をご参照ください。

- インストールガイド
- クライアント利用ガイド
- NEC File Protection Edition 管理者ガイド
- SDK 利用ガイド
- クライアント API 利用ガイド
- 画像ビューアー 利用ガイド
- プロテクタ for NIAS 利用ガイド

4. マニュアルについて

InfoCage FileShell には次のマニュアルが添付されています。導入の前に必ずご確認ください。

マニュアル名	内容	CD-ROM の格納場所
インストールガイド	InfoCage FileShell を導入時に参照するマニュアルです。 インストールの具体的な操作方法や注意事項が記載されています。	(CD ドライブ)¥Manual¥Japanese¥InfoCage FileShell インストールガイド.pdf
管理者ガイド	InfoCage FileShell の管理者が参照するマニュアルです。管理者に必要な情報や操作について記載されています。 ※ InfoCage FileShellの概要についても記載されています。管理者は導入前に参照してください。	(CD ドライブ)¥Manual¥Japanese¥InfoCage FileShell 管理者ガイド.pdf
クライアント利用ガイド	InfoCage FileShell クライアントの利用時に参照するマニュアルです。	(CD ドライブ)¥Manual¥Japanese¥InfoCage FileShell クライアント利用ガイド.pdf
SDK 利用ガイド	InfoCage FileShell SDK を利用する時に参照するマニュアルです。 InfoCage FileShell SDK のインストール方法や FileShell SDK のインタフェースの説明が記載されています。	(CD ドライブ)¥Manual¥Japanese¥InfoCage FileShell SDK 利用ガイド.pdf
クライアント API 利用ガイド	InfoCage FileShell クライアント API を利用する時に参照するマニュアルです。 InfoCage FileShell クライアント API のインタフェースの説明が記載されています。	(CD ドライブ)¥Manual¥Japanese¥InfoCage FileShell クライアント API 利用ガイド.pdf
バックアップツールコマンド利用ガイド	バックアップツールコマンドを利用する時に参照するマニュアルです。 バックアップツールコマンドの説明が記載されています。	(CD ドライブ)¥Manual¥Japanese¥InfoCage FileShell バックアップツールコマンド 利用ガイド.pdf
巡回ツールコマンド利用ガイド	巡回ツールコマンドを利用する時に参照するマニュアルです。 巡回ツールコマンドの説明が記載されています。	(CD ドライブ)¥Manual¥Japanese¥InfoCage FileShell 巡回ツールコマンド 利用ガイド.pdf
NEC File Protection Edition 管理者ガイド	NEC File Protection Edition(NFP)の導入および運用する時に参照するマニュアルです。 NFP のインストール方法および管理者に必要な情報や操作について記載されています。 ※NFP の概要についても記載されています。 NFP を利用する場合、管理者は導入前に参照してください。	(CD ドライブ)¥Manual¥Japanese¥InfoCage FileShell NEC File Protection Edition 管理者ガイド.pdf
NEC File Protection Edition 利用ガイド	NFP の利用時に参照するマニュアルです。	(CD ドライブ)¥Manual¥Japanese¥InfoCage FileShell NEC File Protection Edition 利用ガイド.pdf
画像ビューアー 利用ガイド	画像ビューアーを使用する時に参照するマニュアルです。 画像ビューアーのインストール方法や使用方法が記載されています。	(CD ドライブ)¥Manual¥Japanese¥InfoCage FileShell 画像ビューアー利用ガイド.pdf

マニュアル名	内容	CD-ROM の格納場所
プロテクタ for NIAS 利用ガイド	NIAS(NEC Information Assessment System)と本ソフトウェアを連携して使用する時に参照するマニュアルです。 プロテクタ for NIAS のインストール方法やNIASとの連携および設定方法が記載されています。	(CD ドライブ)¥Manual¥Japanese¥InfoCage FileShell プロテクタ for NIAS 利用ガイド.pdf
リリースメモ	本書です。 InfoCage FileShell インストール CD の内容や導入前に特に確認すべきことなどが記載されています。	(CD ドライブ)¥Manual¥Japanese¥InfoCage FileShell リリースメモ.pdf

※Box 連携機能の利用時に参照するマニュアル『Box 連携機能ガイド』については、別途、NEC サポートポータルにて公開いたします。

5. 導入の流れ

InfoCage FileShell の導入の流れについては、以下をご確認ください。

- RMS/MIP のみを利用する場合
  RMS/MIP のみを利用する場合は、『インストールガイド』の「FileShell 運用までの流れ」をご参照ください。
  使用するクライアントインストールパッケージ：Client¥icfclient_rms

- NEC File Protection Edition(NFP)のみを利用する場合※
  NFP のみを利用する場合は、『NEC File Protection Edition 管理者ガイド』の「NFP の運用までの流れ」をご参照ください。
  使用するクライアントインストールパッケージ：Client¥icfclient_nfp

- NFP と RMS/MIP の両方を利用(併用)する場合※
  NFP と RMS/MIP の両方を利用する場合は、『NEC File Protection Edition 管理者ガイド』の「RMS 環境との併用について」をご参照ください。
  使用するクライアントインストールパッケージ：Client¥icfclient_nfp

※『NEC File Protection Edition 管理者ガイド』では、以下のマニュアルを参照します。
導入および運用の際に必要となりますので、参照できるようあらかじめご準備ください。

・ InfoCage FileShell インストールガイド
・ InfoCage FileShell 管理者ガイド
・ InfoCage FileShell クライアント利用ガイド

6. 導入する前に

導入前に、次の項目をチェックしてください。

☐ ライセンスは必要数揃っていますか？

☐ 使用するサーバー、パソコンの動作環境は条件を満たしていますか？

動作環境については、下記マニュアルの「動作環境について」の項目をご参照ください。

- インストールガイド
- クライアント利用ガイド
- NEC File Protection Edition 管理者ガイド
- SDK 利用ガイド
- クライアント API 利用ガイド
- 画像ビューアー 利用ガイド
- プロテクタ for NIAS 利用ガイド

7. 機能概要

1. 強化機能、変更

本バージョンでは、以下の機能が強化・変更されています。

■ V6.3 Release 1 から V6.3 Release 2 (クライアント Ver. 6.3.98.21066)

- 下記 OS に対応しました。

  FileShell クライアント(クライアント API 含む)

  - Microsoft Windows 11 Pro / Enterprise (2023 Update [Version 23H2])

■ V6.2 Release 3 から V6.3 (クライアント Ver. 6.3.81.20914、クライアント API Ver. 6.3.4.20850、SDK Ver. 6.3.5.20884、サーバー Ver. 6.3.17.20466、プロテクタ for NIAS Ver. 6.3.6.20898、ログ収集 Ver. 6.3.2.20814、NEC File Protection Edition Ver. 6.3.4.20814)

- 下記 OS に対応しました。

  FileShell クライアント(クライアント API 含む)

  - Microsoft Windows 11 Pro / Enterprise (2022 Update [Version 22H2])
  - Microsoft Windows 10 Pro / Enterprise (2022 Update [Version.22H2])

- 下記 OS がサポート対象外になりました。

  FileShell クライアント(クライアント API 含む)

  - Microsoft Windows 10 Pro (November 2021 Update [Version.21H2])
  - Microsoft Windows 10 Pro/Enterprise (May 2021 Update (Ver.21H1))
  - Microsoft Windows 10 Enterprise (October 2020 Update [Version. 20H2])

- 下記アプリケーションがサポート対象外になりました。
  - Microsoft Office Professional Plus 2013
- クライアントインストールやアップデート時の利便性向上のため、クライアントの設定変更を可能とするクライアント設定ファイル作成/適用ツールを提供しました。
- MIP／Azure RMS で分類／保護されたファイルを異なる組織で閲覧可能とする機能を提供しました。
- Box のフォルダーに割り当てられている Box の権限情報(アクセス可能なユーザーや権限)を利用して文書ファイルを分類／保護する Box 連携機能を提供しました。
- クライアント上の Box Drive の同期フォルダーに対して手動分類／保護、自動分類／保護、巡回ツールを動作させることが可能となりました。
- FileShell クライアントにて、全文検索機能のデフォルト設定を有効から無効に変更しました。
- FileShell クライアントにて、NFP 形式で保護された Word、Excel、PowerPoint の文書ファイルを保護ビューで開くことが可能となりました。
- FileShell クライアント、クライアント API、SDK にて、AES256-CBC で保護された Office ファイルの保護解除が可能となりました。
- SDK にて提供している API の利用方法を変更しました。SDK を利用して作成するアプリケーションの開始時と終了時に、それぞれ本 SDK の API による初期化処理、および終了処理をおこなう必要があります。
  アプリケーションを更新しない場合は、V6.2 以下の SDK を継続してご利用ください。なお、この場合 SDK V6.3 で改善された以下の事象が発生する場合があります。(詳細については SDK 利用ガイドを参照ください)

  - SDK にて、AES256-CBC で保護された Office ファイルの保護解除がおこなえない。
  - SDK にて、「MIP／Azure RMS を利用する場合に必要な情報」が設定されていないと MIP／Azure RMS で保護された PDF ファイルの保護状態が認識できず、保護されているにもかかわらず二重に保護される。

2. 修正機能

本バージョンでは、以下の機能が修正されています。

■ V6.3 Release 1 から V6.3 Release 2 (クライアント Ver. 6.3.98.21066、SDK Ver. 6.3.15.21066、プロテクタ for NIAS Ver. 6.3.15.21066)

- FileShell クライアント、クライアント API、SDK、プロテクタ for NIAS にて、分類／保護、または解除する際に、必要とするディスクの空き容量を以下のとおりに改善しました。
  - (改善前):“[処理対象ファイルサイズ] × 2 バイト ＋ 1GB”以上
  - (改善後):“[処理対象ファイルサイズ] × 2 バイト”以上

  ※ 1GB の空き容量が不要になりました。
- FileShell クライアント、クライアント API、SDK、プロテクタ for NIAS にて、MIP のラベルで分類／保護した際に、以下の形式のファイルが AES256 で保護できない (AES128 で保護される)事象を修正しました。
  - プロジェクトファイル(.mpp)
  - プロジェクトテンプレートファイル(.mpt)
  - パブリッシャーファイル(.pub)
  - Visio 2010 Web 図面(.vdw)
  - Visio 2003-2010 図面(.vsd)
  - Visio 2003-2010 ステンシル(.vss)
  - Visio 2003-2010 テンプレート(.vst)
  - SOLIDWORKS 図面ファイル (.slddrw)
  - SOLIDWORKS アセンブリファイル (.sldasm)
  - SOLIDWORKS 部品ファイル (.sldprt)

  ※ ()内は拡張子
- FileShell クライアントにて、MIP のラベルで分類／保護したファイルに対するアクセス権限の確認で、ユーザーID、および作成者の情報が表示されない事象を修正しました。
- FileShell クライアントにて、MIP のラベルで分類／保護、または NFP 形式で保護した動画ファイル (mp4 など) が Windows Media Player で再生できない事象を修正しました。
- FileShell クライアントにて、右クリックメニューから分類／保護、または解除を実行した際の結果詳細画面で発生する以下の事象を修正しました。
  - 「ログの保存」で保存したログに、ファイルパスの情報が正しく出力されない場合がある。
  - 「フォルダを開く」にて、選択したファイルが存在するフォルダーを開けない場合がある。
- FileShell クライアント、クライアント API、SDK にて、一部の保護ファイルに対し、保護解除ができない事象を修正しました。事象が発生する一部の保護ファイルは、以下のすべての条件を満たす場合に限ります。
  - 以下のいずれかで保護したファイルであること
    - FileShell V4.1 (4.1.128.11030)以下の環境で保護
    - Word 2010 を使用して保護 (Excel 2010、および PowerPoint 2010 は対象外)
  - Azure RMS を使用して保護したファイルであること
  - Office IRM 形式であること (Office 2007 IRM 読み取り PW 形式除く)

  ※ 本件の修正には、別途、RMS Client 2.1 が必要になります。

  RMS Client 2.1 については、『インストールガイド』の「動作環境について」をご参照ください。
- SDK、クライアント API にて、ファイル分類／保護解除の API (SDK: IcfsUnprotectEx、クライアント API: IcfcUnprotect)に指定する「分類/保護の適用を解除するファイルパス」に対し、実際の拡張子と大文字小文字を変更して実行した場合 (※)、「分類/保護の適用を解除するファイルパス」に指定したファイルが 0 バイトとなる場合がある事象を修正しました。

※実際のファイルの拡張子が“.txt”の場合に「分類/保護の適用解除後の出力ファイルパス」に指定するファイルの拡張子を“.TXT”と指定して実行する、など

- プロテクタ for NIAS にて、Office ファイルに対して権利ポリシーテンプレートで保護した場合、保護処理が成功しているにもかかわらず、ログにはエラーとして出力される事象を修正しました。

■ V6.2 Release 3 から V6.3（クライアント Ver. 6.3.81.20914、クライアント API Ver. 6.3.4.20850、SDK Ver. 6.3.5.20884、サーバー Ver. 6.3.17.20466、プロテクタ for NIAS Ver. 6.3.6.20898、ログ収集 Ver. 6.3.2.20814、NEC File Protection Edition Ver. 6.3.4.20814）

- FileShell クライアントにて、Intel の 11 世代以降の「ハードウェア強制されたスタック保護」機能を有した CPU を搭載した端末にて、Microsoft 365 Office や Edge を制御対象アプリケーションに指定したとき、アプリケーションの一部の機能が利用できない、またはアプリケーションが起動できない事象を改善しました。
- FileShell クライアントにて、Visual Studio から Office アプリケーションを起動すると 2 回目以降 Office アプリケーションが起動できない事象を改善しました。
- FileShell クライアントにて、ADRMS 環境の場合に、ローカル権利ポリシーテンプレートの作成画面のユーザー権利設定「所有者(作成者)に無期限のフルコントロールの権利を付与する」を設定できるように改善しました。
- FileShell クライアント、NFP、ログ収集のインストーラーにて、コントロールパネルのプログラムと機能から「修復」が実施できない事象を改善しました。
- クラアイント API にて、保護確認用 API（IcfcIsProtected）の実行速度が遅い事象を改善しました。
- クライアント API にて、マルチデバイス形式の保護解除用 API（IcfcUnprotectMultiDeviceFormat）で pdf ファイルを保護解除できない事象を改善しました。

8. 機能概要（過去バージョン）

1. 強化機能、変更

過去バージョンでは、以下の機能が強化・変更されています。

■ V6.2 Release2から V6.2 Release 3 （クライアント Ver. 6.2.55.20171、 SDK Ver. 6.2.19.20158、サーバー Ver. 6.2.96.20144、プロテクタ for NIAS Ver. 6.2.16.20158）

- Azure Active Directory 認証ライブラリ(ADAL)のサポート終了にともない、後継の認証ライブラリである Microsoft Authentication Library (MSAL) による Azure AD 認証に対応しました。

- MSOnline、および Azure AD for Graph の PowerShell モジュールの廃止にともない、FileShell で MIP、または AzureRMS を利用する場合に必要となる情報の入手／設定方法について、マニュアルの更新をおこないました。

■ V6.2 Release 1 から V6.2 Release 2 (クライアント Ver. 6.2.49.20031、 SDK Ver. 6.2.15.20031、プロテクタ for NIAS Ver. 6.2.12.20031)

なし

■ V6.1 Release 2 から V6.2 (クライアント Ver. 6.2.47.19805、クライアント API Ver. 6.2.7.19034、SDK Ver. 6.2.13.19805、サーバー Ver. 6.2.86.19845、プロテクタ for NIAS Ver. 6.2.11.19805、ログ収集 Ver. 6.2.6.19702、NEC File Protection Edition Ver. 6.2.7.19672、画像ビューアー Ver. 6.2.3.19672)

- 下記 OS に対応しました。

  FileShell クライアント(クライアント API 含む)

  - Microsoft Windows 11 Pro / Enterprise
  - Microsoft Windows 11 Pro / Enterprise (October 2021 Update [Version.21H2])
  - Microsoft Windows 10 Pro / Enterprise (October 2021 Update [Version.21H2]]
  - Microsoft Windows 10 Pro / Enterprise (May 2021 Update [Version 21H1])
  - Microsoft Windows 10 Pro / Enterprise LTSC 2021
  - Microsoft Windows Server 2022

  FileShell サーバー

  - Microsoft Windows Server 2022

- 下記 OS がサポート対象外になりました。

  FileShell クライアント(クライアント API 含む)

  - Microsoft Windows 10 Pro (October 2020 Update [Version. 20H2])
  - Microsoft Windows 10 Pro / Enterprise (May 2020 Update [Version.2004])
  - Microsoft Windows 10 Enterprise (November 2019 Update [Version.1909])
  - Microsoft Windows 10 Enterprise LTSB 2015

- 下記データベース管理システムに対応しました。

  FileShell サーバー

  - Microsoft SQL Server 2022 Standard/Enterprise Edition

- 下記データベース管理システムがサポート対象外になりました。

  FileShell サーバー

  - Microsoft SQL Server 2012 (SP4) Standard/Business Intelligence/Enterprise Edition

- 下記アプリケーションに対応しました。

  - Adobe Acrobat Reader DC (64bit)

必要ソフトウェアを変更しました。

FileShell クライアント ／ FileShell サーバー

- Microsoft .NET Framework 4.7.2
- Visual Studio 2015、2017、2019、および 2022 用 Visual C++再頒布可能パッケージ

- Azure AD を利用したポリシー配信に対応しました。
- サーバーインストーラーを用いた新規インストール／アップデートインストール機能を追加しました。
- Web 管理コンソール上で、FileShell サーバーのバージョン情報を確認できるようになりました。
- MIP を利用する組織での FileShell ポリシーのインポート／エクスポートに対応しました。
- オンプレミスの Active Directory や Azure AD のグループ／メンバーの変更内容を、FileShell ポリシーに反映し、更新する機能を追加しました。
- ラベルで保護された PDF ファイルを、MIP plug-in for Acrobat and Acrobat Reader を用いずに FileShell クライアントから開けるようになりました。
  ＊ クライアントインストーラー作成時に、インストーラ作成支援ツールによる設定が必要です。
- カスタムアクセス許可設定が可能なラベルで、手動適用する際の設定の保存、およびその呼び出し機能を追加しました。
- カスタム許可設定が可能なラベルで手動適用する際の、ユーザー検索機能で Azure AD のユーザーを検索できるようになりました。
  ＊ Azure AD のユーザー検索機能を利用するには、Azure AD 参照の資格情報を持つユーザーで接続する必要があります。
- デジタル署名された Office ファイルを、MIP のラベルで分類／保護しようとした際の処理を変更しました。
- 社外など、別テナントの MIP のラベルで分類／保護されたファイルを解除しようとした際に表示されるメッセージを変更しました。
- セットアップパッケージのデジタル署名、および各アプリケーション内の商標記載を NEC Solution Innovators, Ltd.に変更しました。

■ V6.1 Release 1 から V6.1 Release 2（クライアント Ver. 6.1.39.19081、 クライアント API Ver. 6.1.5.18990、SDK Ver. 6.1.14.19081、プロテクタ for NIAS Ver. 6.1.16.19081）

なし

■ V6.0 Release 2 から V6.1（クライアント Ver. 6.1.37.18316、 クライアント API Ver. 6.1.2.18212、SDK Ver. 6.1.11.18299、サーバー Ver. 6.1.74.18365、プロテクタ for NIAS Ver. 6.1.13.18299、NEC File Protection Edition Ver. 6.1.10.18231）

- 下記 OS に対応しました。

  FileShell クライアント

  - Microsoft Windows 10 Pro / Enterprise (May 2021 Update [Version 21H1])

- 下記 OS がサポート対象外になりました。

  FileShell クライアント（クライアント API 含む）

  - Microsoft Windows 10 Pro (November 2019 Update [Version.1909])
  - Microsoft Windows 10 Enterprise (October 2018 Update [Version.1809])
  - Microsoft Windows 10 Enterprise (April 2018 Update [Version.1803])

- FileShell サーバー、および FileShell クライアントに NFP 権利ポリシー認証機能を追加しました。
- クライアント API において、MIP に対応しました。
- クライアント API において、NFP 権利ポリシー認証機能に対応しました。
- SDK において、MIP に対応しました。

- SDK において、NFP 権利ポリシー認証機能に対応しました。
- プロテクタ for NIAS において、MIP に対応しました
- プロテクタ for NIAS において、NFP 権利ポリシー認証機能に対応しました。

■ V6.0 Release 1 から V6.0 Release 2 (クライアント Ver. 6.0.140.17422、クライアント API Ver. 6.0.4.17330)

- 下記アプリケーションに対応しました。
  - Adobe Acrobat Reader 2020(Classic トラック)
- MIP 利用時の、AD RMS 環境での保護／保護解除に対応しました。
- AD RMS 環境への対応に伴い、FileShell クライアント、およびクライアント API にて以下の対応をおこないました。
- 権利ポリシーテンプレート、FileShell の URL の設定、および保護されたファイルについて、Azure RMS が使用されている、または Azure RMS を使用する必要があると判断されたもの以外については、AD RMS で保護されたものとして MSIPC を使用して保護・保護解除を実施する機能を追加しました。

■ V5.0 から V6.0 (クライアント Ver. 6.0.130.17083、サーバー Ver. 6.0.83.17039、NEC File Protection Edition Ver. 6.0.14.16934)

- 下記 OS に対応しました。

  FileShell クライアント
  - Microsoft Windows 10 Pro / Enterprise (October 2020 Update [Version 20H2])
- 下記 OS がサポート対象外になりました。

  FileShell クライアント
  - Microsoft Windows 10 Pro / Enterprise (May 2019 Update [Version.1903])
- 必要ソフトウェアを変更しました。

  FileShell クライアント
  - Visual Studio 2019 の Visual C++ 再頒布可能パッケージ(バージョン 14.28.29325 以上)

  FileShell サーバー
  - Visual Studio 2019 の Visual C++ 再頒布可能パッケージ(バージョン 14.28.29325 以上)
  - ExchangeOnlineManagement PowerShell モジュール(MIP 使用時に必要です)
- Microsoft 社が提供する情報保護ソリューション「Microsoft Information Protection」(MIP)に対応しました。Office365 のセキュリティ&コンプライアンスセンターから取得した MIP の秘密度ラベルを用いて、対象ファイルを分類／保護することが可能です。
- 「Microsoft Information Protection」(MIP)対応に伴い、FileShell クライアントにて、以下の対応をおこないました。
  - MIP の秘密度ラベルを用いて、手動適用、自動適用、共有フォルダー適用、および巡回ツール適用で、ファイルの分類／保護をおこなう機能を追加しました。
  - 巡回ツールコマンドで MIP の秘密度ラベルを用いてファイルの分類／保護をおこなう機能を追加しました。
  - クライアント設定画面、およびポリシー作成画面の文言を一新しました。
  - MIP の秘密度ラベルの情報が添付された FileShell ポリシーを、FileShell サーバーから受信する機能を追加しました。
  - Office365 のセキュリティ&コンプライアンスセンターから取得した MIP の秘密度ラベルを一覧で表示する機能を追加しました。
  - MIP の秘密度ラベルで分類／保護されたファイルを、アイコンオーバーレイで表す機能を追加しました。

- 「Microsoft Information Protection」(MIP)対応に伴い、FileShell サーバーにて、以下の対応をおこないました。
  - Web 管理コンソール上の文言を一新しました。
  - Office365 のセキュリティ&コンプライアンスセンターから MIP の秘密度ラベルを取得するために必要な認証情報を設定する機能を追加しました。
  - Office365 のセキュリティ&コンプライアンスセンターから取得した MIP の秘密度ラベルを一覧で表示する機能を追加しました。
  - FileShell ポリシーに MIP の秘密度ラベルを登録する機能を追加しました。
  - FileShell ポリシーの[手動適用設定]、[自動適用設定]、[共有フォルダ適用設定]、[巡回ツール適用設定]に MIP の秘密度ラベルを登録する機能を追加しました。
  - MIP の秘密度ラベルの情報を FileShell ポリシーに添付して配信する機能を追加しました。
  - FileShell V6.0 未満のクライアントに対して、MIP の秘密度ラベルに関連付けされている権利ポリシーテンプレートの情報を FileShell ポリシーに添付して配信する機能を追加しました。
  - Web 管理コンソールの「オプション」で MIP の秘密度ラベルの妥当性を確認し、更新する機能を追加しました。
  - MIP の秘密度ラベルに関わる操作ログの出力機能を追加しました。
  - AzureRMS サーバーから権利ポリシーテンプレートを取得する機能が廃止になりました。
- FileShell クライアントがインストールされている環境で、FileShell で保護されたファイルを保護解除せずに、ローカルディスク内のファイルに対して全文検索をおこなうためのツール「InfoCage FileShell 全文検索ツール」を提供しました。

■ V4.1 から V5.0 (クライアント Ver. 5.0.67.14679、 クライアント API Ver. 5.0.8.14540、SDK Ver. 5.0.28.14545、サーバー Ver. 5.0.176.15091、ログ収集 Ver. 5.0.20.14679、NEC File Protection Edition Ver. 5.0.14.14679、画像ビューアー Ver. 5.0.11.14576)

- 下記 OS に対応しました。

  FileShell クライアント(クライアント API 含む)
  - Microsoft Windows 10 Pro / Enterprise (May 2020 Update [Version 2004])
  - Microsoft Windows 10 Pro / Enterprise (November 2019 Update [Version 1909])
- 下記 OS がサポート対象外になりました。

  FileShell クライアント(クライアント API 含む)
  - Microsoft Windows 10 Pro (October 2018 Updat e[Version.1809])
  - Microsoft Windows 10 Pro / Enterprise (Fall Creators Update [Version.1709])
  - Microsoft Windows 10 Pro / Enterprise (Creators Update [Version1703])
  - Microsoft Windows 8.1
  - Microsoft Windows Server 2012 R2
  - Microsoft Windows Server 2012
  - Microsoft Windows Server 2008 R2

  FileShell サーバー
  - Microsoft Windows Server 2012 R2
  - Microsoft Windows Server 2012
  - Microsoft Windows Server 2008 R2
- 下記アプリケーションがサポート対象外になりました。
  - Microsoft Office Professional Plus 2010

- 必要ソフトウェアを変更しました。
- Microsoft .NET Framework 4.6.2
- 企業間、部門間情報共有プラットフォームの PROCENTER/C と連携する事が可能となりました。詳細は、PROCENTER/C の製品紹介 HP をご確認ください。
  https://www.nec-solutioninnovators.co.jp/sl/procenter/
- 以下のセキュリティ強化をおこないました。
  - FileShell クライアントの設定情報に対するセキュリティを強化
  - Web 管理コンソール利用時のセキュリティを強化

  セキュリティ強化にともない、FileShell クライアントのインストーラー作成の際、インストール設定ファイル(Setup.ini)でのパラメータ編集を廃止し、「インストーラ作成支援ツール」を利用して編集するように変更しました。
- FileShell サーバーにて、Azure RMS 関連の情報取得方法を、AADRM モジュールから AIPService モジュールに変更しました。
- FileShell クライアントにて、Adobe Acrobat Reader の保護モード有効時、保護された PDF ファイルを他形式で保存するときの動作を変更しました。
- FileShell クライアントにて、Adobe Acrobat Reader で、保護された PDF ファイルを開いたときの動作を変更しました。詳細は「注意・制限事項」をご確認ください。
- FileShell クライアントにて、DFS 名前空間のフォルダーターゲットのパスに対して、マルチデバイス形式および NFP 形式ファイルの自動保護ができない場合がある事象を修正しました。
- FileShell クライアントにて、保護や保護解除時のキャンセル処理を強化しました。

■ V4.0 Release 2 から V4.1 (クライアント Ver. 4.1.128.11030、クライアント API Ver. 4.1.3.9764、SDK Ver. 4.1.45.10925、サーバー Ver. 4.1.97.11068、ログ収集 Ver. 4.1.19.9932、プロテクタ for NIAS Ver. 4.1.42.10933、NEC File Protection Edition Ver. 4.1.10.11030)

- 下記 OS に対応しました。
  FileShell クライアント(クライアント API 含む)
  - Microsoft Windows 10 Pro / Enterprise (May 2019 Update [Version 1903])
  - Microsoft Windows 10 Pro / Enterprise (October 2018 Update [Version 1809])
  - Microsoft Windows 10 Enterprise LTSC 2019
  - Microsoft Windows Server 2019 Standard

  FileShell サーバー
  - Microsoft Windows Server 2019 Standard
- 下記アプリケーションの対応を強化しました。
  FileShell クライアント
  - Docuworks Viewer Light 9 (拡張子 xct 対応を追加)

  Web 管理コンソールの接続対応ブラウザの追加
  - Microsoft Edge
  - Google Chrome
- FileShell サーバーの 32bit モジュールの提供を終了し、64bit モジュールの提供を開始しました。
- 下記 OS がサポート対象外になりました。
  FileShell サーバー
  - Microsoft SQL Server 2008
  - Microsoft SQL Server 2008 R2
- 一括アンインストールを行うツールを提供しました。

- FileShell サーバーにて、NFP 権利ポリシーテンプレートを管理する機能を追加しました。
- FileShell サーバーにて、複数の組織を管理する機能を追加しました。
- FileShell サーバーから FileShell ポリシーを配信する際、盗聴・なりすましを防止する機能を追加しました。
- FileShell サーバーから FileShell ポリシーを配信する際、NFP 権利ポリシーテンプレートを配信可能としました。
- FileShell サーバーのデータベース管理システムとして、PostgreSQL に対応しました。
- Active Directory によるユーザー管理を利用せず、FileShell ポリシーを配信する機能(簡易配布)を追加しました。
- Web 管理コンソールにて、設定可能な範囲をユーザーごとに制限できる機能(ロール機能)を追加しました。
- Web 管理コンソールにて、共通ポリシーの初期フォーマット(共通ポリシーのテンプレート化)を管理する機能を追加しました。
- FileShell サーバーにて、サーバーにポリシー受信を要求したクライアントの接続状況を管理する機能を追加しました。
- FileShell サーバーにて、NFP 外部用クライアントに、FileShell ポリシーを配信する機能を追加しました。
- FileShell サーバーで FileShell ポリシーを新規作成する際の、拡張子および標準アプリケーションの既定値を変更しました。
- 「InfoCage FileShell NEC File Protection (NFP)」クライアントについて、以下の機能強化を行いました。
  - NFP 機能において、多言語［日本語、英語、中国語(繁体字・簡体字)]に対応
  - NFP 形式でのアクセス権限に、[印刷]、[抽出]、[閲覧]を追加
  - NFP 形式による保護ファイルのフォーマットを変更
    V4.0／V4.1 間の互換性は以下となります。
    - V4.1 で保護した NFP 形式ファイルは、V4.0 クライアントでは利用不可
    - V4.0 で保護した NFP 形式ファイルは、V4.1 クライアント環境に保護で使用した V4.0 の NFP 権利ポリシーテンプレートをインポートすることで利用可能
  - ログオン時や、NFP 形式で保護されたファイルを閲覧する際に、NFP 権利ポリシーテンプレートの有効期限切れや、有効期限が近付いた旨を通知する機能を追加
  - 一定期間、FileShell ポリシーの受信をおこなっていない場合に、クライアントの NFP 権利ポリシーテンプレートを無効にする機能を追加
  - クライアント設定ツールから複数の公開鍵(req ファイル)を指定して NFP 権利ポリシーテンプレートのエクスポートで失敗した際のエラーメッセージを強化
  - 同一鍵 ID の NFP 権利ポリシーテンプレートをインポートする際に、鍵 ID，有効期限，発行日等の条件を基にインポート可否の判断を行う機能を強化
  - NFP 権利ポリシーテンプレートをインポートする際に表示されるパスワード入力画面にて、NFP 権利ポリシーテンプレートの説明を表示するように変更
  - 未変換の NFP 権利ポリシーテンプレートを利用して、複数ファイルを同時に手動保護/手動保護解除/巡回保護した際のパスワード入力画面でキャンセルした場合に、以降のファイルについてはパスワード入力画面が再表示されないように変更
  - NFP 権利ポリシーテンプレートを紛失した場合においても、組織で管理する固有の情報を元に、NFP 形式で保護されたファイルを保護解除可能とする機能を追加
  - NFP 権利ポリシーテンプレートに関連した各種操作（新規作成・インポート・エクスポート・バックアップ）を行った際、イベントログを出力する機能を追加
  - 「NFP 権利ポリシーテンプレートの作成許可」と「NFP 権利ポリシーテンプレートのインポ

ート許可」を個別に設定できるように変更

- FileShell SDK、クライアント API、およびプロテクタ for NIAS において、NFP 形式ファイルに対応しました。
- FileShell 管理者から配布された FileShell ポリシーの設定を、端末利用者が変更し、その後 FileShell 管理者から FileShell ポリシーが再配布された場合でも、端末利用者の FileShell ポリシーの設定が消失しないように改善しました。
  ［設定対象］： 保護対象ファイル、手動保護、自動保護、共有フォルダー保護、巡回保護ツール
- 共有フォルダー上のファイルを保護・保護解除する際の処理(ファイルサーバーの情報取得、および DFS 名前空間の展開処理)の見直しをおこない、共有フォルダー保護、巡回保護、および、手動保護解除した際に要する時間を改善しました。
- FileShell クライアントからのログ送信を、一定時間間隔に指定しておこなう機能を追加しました。

■ V4.0 Release 1 から V4.0 Release 2 (クライアント Ver. 4.0.155.7988、NEC File Protection Edition Ver. 4.0.6.7505)

- 下記アプリケーションに対応しました。
  - Microsoft Office Professional Plus 2019
  - Microsoft Visio 2019
- Windows10 Fall Creators Update(1709)以降のバージョンにて、平文ファイルを更新しても、自動保護されない場合がある事象に対応しました。

■ V3.2 から V4.0 (クライアント Ver. 4.0.152.7648、サーバー Ver. 4.0.0.7653、ログ収集機能 Ver.4.0.5.7648、SDK Ver. 4.0.43.7646、クライアント API Ver.4.0.3.7615、NEC File Protection Edition Ver. 4.0.5.7505、プロテクタ for NIAS Ver. 4.0.18.7648、画像ビューアー Ver. 4.0.13.7600)

- 下記 OS に対応しました。
  FileShell クライアント(クライアント API 含む)
  - Microsoft Windows 10 Pro / Enterprise (April 2018 Update [Version1803])
- 下記データベース管理システムに対応しました。
  FileShell サーバー
  - Microsoft SQL Server 2017
  - Microsoft SQL Server 2016 SP2
  - Microsoft SQL Server 2012 SP4
- オンプレミスまたはクラウドの RMS 基盤を使用せず、NEC 独自の方式により「文書の保護」や「利用の制限(権限による制御)」などを行うことが可能となる、「NEC File Protection Edition(NFP)」を提供しました。
- FileShell クライアントと連携して、FileShell で保護された画像ファイルを閲覧することが可能な画像閲覧ソフトウェア「InfoCage 画像ビューアー」を提供しました。
- NIAS (NEC Information Assessment System)と連携して、NIAS が検出したファイルを Office IRM/FileShell 形式で保護(暗号化)することができるオプションソフトウェア「プロテクタ for NIAS」を提供しました。
- 下記 OS がサポート対象外になりました。
  FileShell クライアント(クライアント API 含む)
  - Microsoft Windows 10 Pro / Enterprise (Anniversary Update [Version1607])
- SecureBulwark ファイル保護サービス(NFPS)のサービス終了にともない、FileShell の下記機能を削除しました。
  - 外部連携設定 – NFPS 連携機能

- FileShell のメンテナンス機能で、以下のモジュールを配信モジュールとしてクライアントに配信・適用できるよう強化しました。
  - ログ収集機能
  - 簡易認証連携オプション
- FileShell クライアントのインストーラーを作成の際、インストール設定ファイル(Setup.ini)に FileShell 管理者の意図しない利用者による設定変更を防止するため、クライアント設定ツールの値の変更を無効にしたり、指定したメニューを非表示にしたりすることが可能な設定項目「CLIENTSETTINGFILTER」を追加しました。
  また、インストーラ作成支援ツールに、本設定を行う項目「クライアントの操作制限」を追加しました。
- FileShell クライアントのインストーラーを作成の際、インストール設定ファイル(Setup.ini)にユーザー定義アプリケーションで新規作成した保護対象拡張子をもつファイルの保護を行わないようにする設定項目「USERAP_PROTECT_PRIORITY」を追加しました。
- FileShell クライアントのインストーラーを作成の際、インストール設定ファイル(Setup.ini)にユーザー定義アプリケーションが開いた保護ファイルを閉じた後、アプリケーションのプロセスが終了していなくても、一定時間経過後に閉じたファイルの権限情報を破棄するようにする設定項目「USERAP_RIGHTS_PRIORITY」を追加しました。
- FileShell クライアントをインストールする際、不正なモジュールのインストールを防止するため、モジュール情報ファイル(Product.ini)で指定された追加のセットアップパッケージのデジタル署名をチェックする機能を追加しました。
- FileShell クライアントで、キャッシュ作成の際、結果詳細画面に有効期限を表示するよう強化しました。
- FileShell クライアントで、クライアント設定をウインドウの右上[X]ボタンをクリックして終了する際、変更保存の確認メッセージを表示するよう変更しました。
- FileShell クライアントで、アクセス権限画面での表示を以下のように変更しました。
  - 変更前:表示するユーザーと権限のフルコントロールがある場合、すべて「はい」と表示する
  - 変更後:ユーザーにフルコントロール権限がある場合、すべての権限を「はい」と表示する
- ログ送信機能で、プロキシサーバーを利用する環境の場合、OS のインターネットオプションのプロキシ設定を参照してログが送信できるよう強化しました。
- FileShell サーバーに付属する、バックアップツールで、バックアップするログの保存先にネットワークドライブを UNC 形式で指定できるよう強化しました。
- FileShell SDK で、EXCLUDEFILECONF 等の設定を行うための UI「オプション設定」を環境設定ツールに追加しました。
- 64bitOS 環境で 32bit 版のクライアント API を使用できるよう強化しました。

■ V3.1 Release 3 から V3.2 (クライアント Ver. 3.2.179.6305、サーバー Ver. 3.2.0.2885、ログ収集機能 Ver. 3.2.18.5992 、SDK Ver.3.2.50.6157、クライアント API Ver. 3.2.15.6001)

- 下記 OS に対応しました。
  FileShell クライアント(クライアント API 含む)
  - Microsoft Windows Server 2016
  - Microsoft Windows 10 Pro / Enterprise (Creators Update [Version1703])
- 下記 OS に対応しました。
  サーバー(FileShell SDK 含む)
  - Microsoft Windows Server 2016
- 下記アプリケーションに対応しました。
  - Adobe Acrobat Reader DC(Classic)および 2017
- 下記アプリケーションがサポート対象外になりました。
  - Microsoft Office Professional Plus 2007

- Adobe Reader XI
- Adobe Acrobat XI

- FileShell SDK の 32bit モジュールを廃止しました。
- Azure RMS を利用する際に必要な環境情報を簡単に取得できる「Azure RMS 接続情報取得ツール」を提供しました。
- クライアントインストール時に利用する「インストール設定ファイル(setup.ini)」および「モジュール情報ファイル(Product.ini)」を GUI から簡単に作成できる「インストーラ作成支援ツール」を提供しました。
- FileShell クライアントで、Azure RMS 利用時に、Azure RMS の Document Tracking 機能と連携し、保護されているファイルの利用状況などを確認することができるようになりました。

  ＊ 本機能は、FileShell クライアントで動作します。FileShell SDK は対象外です。
- FileShell クライアントで、保護ファイルを編集・保存する場合に、アプリケーションの動作によっては、データを削減しても、ファイルサイズが減少しない場合がある事象を改善しました。
- FileShell クライアントで、エクスプローラー上の保護ファイルに鍵アイコンを表示する処理のうち、保護ファイルかどうかを確認する処理を分離し、専用プロセスで実行するよう変更しました。
- FileShell クライアントで、共有フォルダー内の保護対象外ファイルにアクセスし、その後接続を終了するなどでファイルにアクセスできない状況となった場合に出力されるイベントログを下記のように変更しました。
  - 変更前:「ファイルの保護に失敗しました。」
  - 変更後:「ネットワークに接続されていないため、保護対象ファイルかどうか確認できませんでした。」
- FileShell サーバーの動作に必要なサービスを役割ごとに細分化し、クライアントの接続数が一定の数を超えた場合、ポリシー受信、ログ送信、Web 管理コンソールのログオンができなくなる場合がある事象を改善しました。

  ＊ 本バージョンから、FileShell サーバーのバージョンアップインストール手順が変更されています。バージョンアップインストールを行う場合は、記載の手順を事前によくお読みの上、作業を行ってください。
- FileShell サーバーで、本バージョンから共通および SG ポリシーを作成する際、下記の設定で権利ポリシーの登録が必須となりました。
  - 自動保護
  - 共有フォルダー保護
  - 巡回保護
- クライアント上の OneDrive および OneDrive for Business の同期フォルダーを自動保護の保護対象フォルダーとして FileShell ポリシーに指定できるようにしました。
- Web 管理コンソールの[共通ポリシ]/[SG ポリシ] - [手動保護ポリシ設定]で、保護ファイル形式を「Office IRM/FileShel 形式」、「マルチデバイス形式」から設定できるようになりました。
- Web 管理コンソールの[ログ解析]画面で検索結果をエクスポートする際、出力する CSV ファイルの形式を Microsoft Excel で閲覧可能な形式(「UTF-16」から「UTF-8 BOM 付き」)に変更しました。
- クライアント API および FileShell SDK で、マルチデバイス形式を使用したファイル保護ができるようになりました。

■ V3.1 Release 2 から V3.1 Release 3 (クライアント Ver. 3.1.96.5437、サーバー Ver. 3.1.1.2762、SDK Ver. 3.1.24.5402)

- 保護されてない Office2003 形式のファイルに対し、右クリックしたときのメニュー表示時の処理において、Explorer を通したディスク I/O 回数を削減するよう改善しました。
- クライアントインストール時の関連セットアップで、msi 指定時に旧バージョンが存在する場合、正しくインストールされない事象を改善しました。

- メンテナンス機能で配布する exe モジュールが、VC++2005 ランタイムに依存しないよう改善しました。
- FileShell の保護処理が動作していない状態で、OS のログオフやシャットダウンが実行されたとき、FileShell プロセスの終了処理中に、OS からのレスポンスが無くなる場合があり、時間経過してもログオフが終了しないことがある事象に対し、FileShell 側で回避対策を実施し、ログオフやシャットダウンの処理が進むよう対応しました。
- ログバックアップツールでバックアップまたは削除を行う際の終了日の内部設定を変更し、終了日全体のログが処理されるよう改善しました。

■ V3.1 Release1 から V3.1 Release 2(クライアント Ver. 3.1.90.4892)

- 下記アプリケーションに対応しました。
  - Adobe Acrobat Reader DC (Classic)

    ＊ Adobe Acrobat Reader DC Classic の保護モードを有効にしたまま利用する場合は、『管理者ガイド』-「2.9 Microsoft Office 以外のアプリケーションの制御機能に関する注意事項」の「Adobe Reader XI、DC、Adobe Acrobat XI」の項目を参照してください。
    また、レジストリ変更の際は、"11.0"の部分を"2015"に読み替えてください。
    なお、本設定を自動で行う「Adobe 保護モード設定ツール」は、Adobe Acrobat Reader DC Classic には対応しておりません。
- SharePoint で保護された PDF IRM 形式ファイルの確認処理に時間がかかる場合があるため、デフォルトでその確認を行わないよう設定を変更しました。
  この設定変更による PDF IRM 形式ファイルへの影響は以下のとおりです。
  - 鍵アイコンが表示されなくなります。
  - 右クリックメニューから保護解除などの操作ができなくなります。

  保護解除などの操作を行う必要がある場合、以下のレジストリを設定してください。

  キー ： HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥InfoCageFileShell¥Conf
  名前 ： CheckPdfConf
  種類 ： REG_DWORD
  値 ： 1
- OS が Windows 10 Anniversary Update [Version1607]の場合、FileShell クライアントを新規にインストールできない場合がある事象に対応しました。

■ V3.0(クライアント Ver. 3.0.262.4183、ログ収集機能 Ver. 3.0.31.4217)から V3.1 Release1

- 下記ソフトウェアがサポート対象外になりました。
  - Microsoft SQL Server 2005 (SP4) Standard/Enterprise Edition
  - Microsoft Internet Explorer 8.0
- 下記アプリケーションがサポート対象外になりました。
  - Adobe Reader 9
  - Adobe Reader X
- Microsoft Office 2016 (Word、Excel、PowerPoint) に対応しました。
- Microsoft Visio 2016 のファイル(vsdx、vstx、vsdm、vstm)の Office IRM 形式での保護および保護解除に対応しました。
  ＊ インストール設定ファイル(setup.ini)で、従来の保護方式である FileShell 形式と Office IRM 形式
  のどちらかを設定することができます。
- AES256 で FileShell 形式でのファイル保護ができるようになりました。
  ＊ インストール設定ファイル(setup.ini)で、従来の保護方式である AES128 と AES256 のどちらかを設定することができます。

- Azure RMS で ADAL(Active Directory Authentication Library)認証が使用できるようになりました。
- 視認性向上のため、ファイルを選択して右クリックした際に表示される FileShell のメニューにアイコンを表示しました。
- FileShell の右クリックメニューの「保護」および「保護(マルチデバイス形式)」の各内容を「保護」メニューに集約しました。
- FileShell の右クリックメニューの「保護」に、ユーザーが権利ポリシーテンプレートおよび保護形式を任意に選択できる、[権利ポリシを選択する]項目を追加しました。
- FileShell の右クリックメニュー「アクセス権限の確認」に、保護形式、暗号化方式および詳細なアクセス権限を確認することができる、「詳細なアクセス権限確認」画面を追加しました。
- FileShell の右クリックメニューの「保護」に表示される項目の表示順をクライアント設定ツールの手動保護メニューから変更できるよう改善しました。
- 権利ポリシーテンプレートの「コンテンツの有効期限」に、時刻の設定を追加しました。また、有効期限が UTC で動作するよう変更しました。
- FileShell サーバーの[権利ポリシ管理]機能で、スコープ設定された権利ポリシーテンプレートを Azure RMS サーバーから取得できるようになりました。
  ＊ スコープ設定された権利ポリシーテンプレートを取得する場合は、Web 管理コンソールの権利ポ
  リシ管理画面で、[Azure RMS サーバに接続] – [パスワード認証]を設定する必要があります。
- アクセス権限参照に「権利の表示」を追加しました。
- FileShell で作成する権利ポリシーテンプレートの[ユーザ権利]に「権利の表示」を追加しました。
- Web 管理コンソールの[共通ポリシ設定] - [手動保護設定]で、共通ポリシー間での権利ポリシーテンプレート名を重複して登録できるよう改善しました。
- FileShell サーバーで指定したポリシーを、FileShell サーバーでインポート可能な XML 形式でエクスポートできる「設定エクスポート」機能を追加しました。
- Web 管理コンソールの共通ポリシーおよび SG ポリシーのインポート画面で、XML 形式で作成したポリシーのインポートに対応しました。
- Windows フォトビューアを使用する目的でユーザー定義 AP に dllhost.exe および rundll.exe を登録し運用する際、Windows フォトビューアのみでファイルの保護解除が動作し、dllhost.exe および rundll.exe から他のアプリケーションが起動された場合は、ファイルの保護解除が動作しないよう、内部処理を改善しました。
- FileShell サーバーの動作を改善し、ポリシー受信処理を高速化しました。
- FileShell SDK およびクライアント API で Azure RMS を利用し、ファイルの保護や保護解除ができるようになりました。

■ V3.0 から V3.0(クライアント Ver. 3.0.262.4183、ログ収集機能 Ver. 3.0.31.4217)

- 保護された PDF ファイルを特定のアプリケーションで保存できない事象の改善対応を実施しました。
- 共有フォルダー保護機能で、共有フォルダー上のファイル更新が検知できない場合がある事象の改善対応を実施しました。
- Azure RMS でスコープ設定された権利ポリシーが、クライアントの権利ポリシーの管理画面に表示されない事象の改善対応を実施しました。
- FileShell のユーザーID 情報が存在しない場合、ローカル権利ポリシーで保護できない事象の改善対応を実施しました。

■ V2.1.0 Release4(クライアント Ver. 2.1.0.30、サーバーVer. 2.1.0.8、SDK Ver. 2.1.0.4) から V3.0

- 下記 OS に対応しました。
  FileShell クライアントの利用 OS

- Microsoft Windows 10
  Classic Windows アプリ(Desktop Application)のみ

- 下記 OS がサポート対象外になりました。
  - Microsoft Windows Vista
  - Windows 8
  - Microsoft Windows Server 2008
  - Microsoft Windows Server 2003 R2
- 認証基盤として Microsoft Azure Rights Management サービス に対応しました。
- FileShell が基盤とする RMS クライアントコンポーネントを、MSDRM から MSIPC に変更しました。
- ユーザーID 管理ツールを廃止しました。
- Adobe 保護モード設定ツールを提供しました。
- 必要ソフトウェアについて以下のとおり変更が発生していますので、バージョンアップ時などご注意ください。
- Visual Studio 2015 の Visual C++ 再頒布可能パッケージ
- Microsoft .NET Framework 4.5.2
- Rights Management Service Client V2.1
- 手動保護/キャッシュ作成/アクセス権参照機能を強化しました。
- FileShell クライアントの右クリックメニューの表示を制御可能にしました。
- アクセス権参照に「マクロの許可」を追加しました。
- FileShell クライアントの右クリックメニューの表示内容を変更しました。
  (NFPS 保護、Azure 保護の削除、保護[マルチデバイス形式]の追加)
- キャッシュ作成で作成するキャッシュの既定値を MSIPC に変更しました。
- 手動保護で保護対象外フォルダーを設定可能にしました。
- 自動保護機能を強化しました。
  - 保護形式としてマルチデバイス形式を選択可能にしました。
  - Microsoft Azure Rights Management サービスを利用可能にしました。
  - 対象フォルダー毎に権利ポリシーテンプレートを設定可能にしました。
  - 保護対象のフォルダー内でも、保護ファイルを一時的に保護解除できるよう設定可能にしました。
- 共有フォルダー保護機能を強化しました。
  - 保護形式としてマルチデバイス形式を選択可能にしました。
  - Microsoft Azure Rights Management サービスを利用可能にしました。
  - 保護対象のフォルダー内でも、保護ファイルを一時的に保護解除できるよう設定可能にしました。
  - 保護対象外フォルダーを設定可能にしました。
  - [全ての共有フォルダ]という指定を可能にしました。
  - 保護対象フォルダーの指定方法として、ワイルドカードを使用可能にしました。
- 巡回保護機能を強化しました。
  - 保護対象フォルダーとして、自動保護フォルダー以外に、共有フォルダー保護の対象フォルダー、および、特定のフォルダーを設定可能にしました。
  - 巡回保護ツールをサイレントで実行可能にしました。

- 巡回保護解除を実行可能にしました。
- 巡回保護の動作を FileShell ポリシーで設定可能にしました。

- アプリケーション制御機能を強化しました。
  - FileShell ポリシーとして、クライアントで登録/編集できないユーザー定義アプリケーションを、設定可能にしました。
  - ユーザー定義アプリケーションを開く際に、確認ダイアログを表示するようにしました。
- ポリシー更新機能を強化しました。
- ポリシー受信時にユーザーの所属ドメインを指定可能にしました。これにより、多数のドメインが登録されている場合に、ポリシー受信時の所属ドメイン検索の処理時間が軽減されます。
- クライアント設定ツールを強化しました。
- クライアント設定ツールで設定できるポリシー項目を拡大しました。
- 設定内容のエクスポート/インポートを可能にしました。
- タスクトレイの通知メッセージ表示を制御可能にしました。
- FileShell ポリシーを作成可能にしました。これにより FileShell サーバーを構築せず、運用することが可能になります。
- ログ収集機能を強化しました。
- ログ収集先をデータベースに変更しました。
- ログ収集スケジュールを FileShell ポリシーで設定可能にしました。
- 収集したログを Web 管理コンソール上で閲覧・検索・グラフ表示可能にしました。
- Web 管理コンソールを強化しました。
- Web 管理コンソールで、ポリシー更新日時のタイムゾーンを設定可能にしました。
- Web 管理コンソールで権利ポリシーテンプレートの設定方法を改善しました。
- Microsoft Azure Rights Management サービスの権利ポリシーテンプレートを FileShell ポリシーに利用可能にしました。
- CSV ファイルをインポートすることで、FileShell ポリシーを作成可能にしました。
- ポリシー受信履歴の機能をログ解析機能に統合しました。
- SDK、クライアント API を強化しました。
- FileShell が基盤とする RMS クライアントコンポーネントが、MSIPC に変更となったため、権利ポリシーテンプレートの指定方法を変更しました

■ V2.1.0 Release3 から V2.1.0 Release4(クライアント Ver. 2.1.0.30、サーバーVer. 2.1.0.8、SDK Ver. 2.1.0.4)

なし

■ V2.1.0 Release2 から V2.1.0 Release3(クライアント Ver. 2.1.0.28、サーバー Ver. 2.1.0.7)

- 下記 OS に対応しました。
  FileShell クライアントの利用 OS
  - Microsoft Windows Server 2008
  - Microsoft Windows Server 2008 R2
  - Microsoft Windows Server 2012
  - Microsoft Windows Server 2012 R2
- 下記アプリケーションに対応しました。

- Adobe Acrobat Reader DC (Continuous)
- Widows Server 2008, 2008R2, 2012, 2012R2 に FileShell クライアントをインストールし、リモートデスクトップサービス環境で利用できるよう対応しました。

・ [キャッシュ作成]時の対象ファイルについて、対象拡張子の[自動保護]設定ではなく、[手動保護(鍵アイコンおよび右クリックメニュー表示)]設定の拡張子で動作するよう変更しました。

■ V2.1.0 Release1 から V2.1.0 Release2(クライアント Ver. 2.1.0.20、サーバー Ver. 2.1.0.6)

- 共有フォルダー保護に関連する DFS 解析機能を有効化/無効化する設定を可能にしました。
- 保護ファイルの利用時に、利用しているアプリケーションと連動する IcfArMgr.exe が終了されていた場合に、再起動するようにしました。

■ V2.0.2 から V2.1.0 Release1

・ 下記 OS、DB、および IE に対応しました。
FileShell クライアントの利用 OS
  - Microsoft Windows 8.1(デスクトップモードのみ)

・ FileShell サーバーの利用 OS
  - Microsoft Windows Server 2012 R2
  - Microsoft SQLServer 2014
  - Microsoft Internet Explorer 11.0

・ 下記 OS、および IE がサポート対象外になりました。
  - Microsoft Windows XP
  - Microsoft Internet Explorer 7.0

・ 下記アプリケーションに対応しました。
  - Adobe Acrobat XI

・ 下記アプリケーションがサポート対象外になりました。
  - Microsoft Office Professional Edition 2003

・ Microsoft Azure Rights Management サービス との連携機能を提供しました。

・ 読み取りパスワード付き Office2007 形式ファイルの保護に対応しました。

・ 2GB を超えるファイルの保護に対応しました(FileShell 形式のみ)。

・ 『自動保護の対象となる拡張子』と『手動保護の対象となる拡張子、および、文書の保護状態を示すアイコンの表示対象となる拡張子』を分けて設定可能にしました。

・ FileShell 常駐プロセスを監視し、意図せずに終了した場合に、終了したプロセスを自動的に再起動するようにしました。

・ 自動保護の対象フォルダーとして、リムーバブルメディアを指定可能にしました。

・ エクスプローラーのプロパティ画面で、ファイルが保護されているかどうかを確認可能にしました。

・ Web 管理コンソールの利便性を向上しました。
  - ポリシー受信履歴を参照可能にしました。
  - Web 管理コンソールでの設定内容をエクスポート可能にしました。
  - 共通ポリシーに、コメント欄を追加しました。
  - 管理者パスワードの変更期限を設定可能にしました。

- ファイルを保護・保護解除したときの失敗ログを出力するようにしました。
- 巡回保護ツールの開始・終了ログを出力するようにしました。
- ログ収集機能で、送付するログファイルを Excel 等のアプリケーションで閲覧できるように、BOM を付与する設定を可能にしました。
- 文書の保護・保護解除結果の確認画面で、既に保護されていたファイルを保護しようとした場合等には『スキップ』に分類されるように変更しました。
- FileShell サーバーの共通ポリシーにおいて、強制適用範囲の見直しを行いました。
- シンボリックリンク・ジャンクション等で指定されているパスに対する、保護・保護解除動作の見直しを行いました。
- ファイルの保護・保護解除時に代替ストリームの情報を引き継ぐようにしました。

■ V2.0.1 から V2.0.2

- Adobe Reader X、XI の保護モードを有効にした状態で pdf ファイルを閲覧可能にしました。
- Office の閲覧ログ（Office で保護ファイルを閲覧した際のイベントログ）を出力可能にしました。
- Office で保護ファイル閲覧時にバルーン通知が表示されるようになりました。
- RMS の構成である、Trusted User Domain(TUD:信頼されたユーザードメイン)、および、Trusted Publishing Domain(TPD:信頼された発行ドメイン)に対応しました。
- 「企業間における文書ファイル保護サービス」（NFPS）との連携機能を提供しました。
- 自動保護が正常終了しなかった場合（実行中に電源断が発生した場合等）、次回ログオン時に巡回保護ツールを起動するように変更しました。
- 共有フォルダー保護が正常終了しなかった場合（実行中に電源断が発生した場合等）、次回ログオン時にリトライ処理で保護されるように変更しました。
- FileShell が保護した Office2003 形式ファイルに、不要なユーザー情報が含まれる事象に対応しました。
- 右クリックメニューの「キャッシュ作成」を表示しない設定を可能にしました。
- Office アプリケーションで保護できない形式のファイルを、保護しない設定を可能にしました。
- 右クリックメニューから保護解除した場合に、保護対象拡張子に指定されていないファイルが保護解除されないよう変更しました。
- ごみ箱内のファイルを保護した場合に、ごみ箱内のファイルが表示されなくなる事象に対応しました。
- スタートメニューの[InfoCage FileShell]フォルダーを、[NEC]-[InfoCage FileShell]に変更しました。

■ V2.0.0 から V2.0.1

- 下記 OS に対応しました。
  - Microsoft Windows 8（デスクトップモードのみ）
  - Microsoft Windows Server 2012
- 下記アプリケーションに対応しました。
  - Microsoft Office Professional Plus 2013
  - Adobe Reader XI
- ユーザー定義アプリケーションに Office アプリケーションを指定可能にしました。
- 保護されているファイルに対して、再保護（権限の付け替え）の操作を可能にしました。
- クライアントで権利ポリシーテンプレートを作成できる機能を提供しました。

- 保護されているファイルに対して、RMS サーバーに接続できない状態でも開けるように、あらかじめ使用ライセンスを作成し、キャッシュする機能を提供しました。
- RMS サーバーのライセンス専用クラスタへの対応を可能にしました。
- クライアントで FileShell のポリシー設定を変更できる機能を追加しました。
- ポリシー受信の受信タイミングを設定できるよう改善しました。
- http/https でのポリシー受信に対応しました。
- Web 管理コンソールの利便性を向上しました。
  - SG ポリシー毎に SG 管理者を設定可能にしました。
  - Web 管理コンソールの保護対象拡張子の設定画面で、複数の拡張子を一括で登録可能にしました。
  - Web 管理コンソールで SG ポリシーを流用して作成できる機能を提供しました。
  - Web 管理コンソールで手動保護ポリシーの名称を変更可能にしました。
  - 自動保護、共有フォルダー保護で権利ポリシー名の設定を不要にしました。
- FileShell クライアント API を提供しました。
- 32bit OS 上でも FileShell SDK をサービスプロセスから利用可能にしました。
- FileShell SDK で権利ポリシーテンプレートを作成できる機能を提供しました。
- FileShell クライアントのイベントログをサーバーに収集する機能を提供しました。

■ V1.1.3 から V2.0.0

- 下記 DBMS に対応しました。
  - Microsoft SQLServer 2012
- 下記アプリケーションに対応しました。
  - Creo Parametric Ver1.00
  - DocuWorks Viewer Light 7.2
- 中国語(繁体字)表示に対応しました。
- FileShell SDK をサービスプロセスから利用可能にしました（64bit のみ）。
- FileShell クライアントインストール後、初回ログオン時に指定が必要なユーザーID 情報について、AD からログオンアカウントの情報を取得し、自動設定するよう改善しました。
- FileShell クライアントの利用者がユーザー設定ツールを表示しないように、FileShell 管理者によって設定可能にしました。
- FileShell クライアントの自動更新機能に対応しました。
- 保護された文書を標準対応アプリケーション以外の幅広いアプリケーションで閲覧可能にしました。

■ V1.1.2 から V1.1.3

- Adobe Reader のドロップ＆ドラッグ操作を、FileShell の制御対象に追加しました。
- FileShell クライアントからのポリシー要求に対する処理性能を向上しました。

■ V1.0.3 から V1.1.2

- 下記 OS および DBMS に対応しました。
  - Microsoft Windows 7 SP1、Microsoft Windows 7 SP1(64bit)
  - Microsoft Windows Server 2008R2、Microsoft Windows Server 2008(64bit)
  - Microsoft SQLServer 2008R2
- 下記アプリケーションに対応しました。

- Microsoft Office Professional Plus 2010
- ペイント Ver 6.0(Windows Vista), Ver6.1(Windows 7)
- AutoCAD 2011、AutoCAD 2012
- SolidWorks Premium 2010 SP4.0
- Pro/ENGINEER WILDFIRE 5.0
- Adobe Reader X

- 英語および中国語(簡体字)表示に対応しました。
- Office アプリケーションにて、ファイルを保護・保護解除したときにログ出力可能にしました。
- FileShell が出力する操作ログを、簡単に削除できないようにしました。
- FileShell クライアントのインストールにて、サイレントインストールに対応しました。
- 右クリックメニューにて、複数ファイルの保護・保護解除に対応しました。
- タスクトレイメニューより、ポリシーバージョンを確認できる機能を追加しました。
- ファイルサーバー上のファイルの保護に対応しました。
- 権利ポリシーテンプレートにて設定できる項目「所有者(作成者)に無期限のフルコントロールの権利を付与する」の設定に対応しました。
- 共通ポリシー設定を SG ポリシーよりも優先させて強制適用できる機能を追加しました。
- FileShell サーバーの Web 管理コンソールにて、ユーザーやセキュリティグループの管理機能を追加しました。
- FileShell サーバーの Web 管理コンソールにて、RMS 権利ポリシーテンプレートの管理機能を追加しました。
- 複数の RMS サーバーの、権利ポリシーテンプレートを使用して保護された文書を参照可能にしました。
- FileShell クライアントの利用者がポリシー更新後の対象フォルダー自動保護をキャンセルできないように、FileShell 管理者によって設定可能にしました。
- DFS(分散ファイルシステム)による、保護対象フォルダーの指定を可能にしました。
- FileShell サーバーのログ内容を強化し、FileShell 管理者による Web 管理コンソールでの操作を監視可能にしました。

2. 修正機能

過去バージョンでは、以下の機能が修正されています。

■ V6.2 Release2から V6.2 Release 3 （クライアント Ver. 6.2.55.20171、 SDK Ver. 6.2.19.20158、サーバー Ver. 6.2.96.20144、プロテクタ for NIAS Ver. 6.2.16.20158）

- FileShell クライアント、および FileShell SDK にて、オンプレミスの AD RMS のライセンスサーバーを Azure RMS にリダイレクトして利用している環境においてオンプレミスの AD RMS の権利ポリシーで保護されたファイルの保護を解除しようとしたとき、Azure RMS の認証キャッシュがないと解除できない事象を改善しました。
- FileShell クライアント、および FileShell SDK にて、MIP で保護されたファイルの保護状態の確認がおこわなれた際にメモリリークが発生する場合がある事象を改善しました。
- FileShell サーバーで、Azure Active Directory でポリシーの配布先を管理する組織において、SG ポリシーの対象ユーザーに推移的に所属するグループを設定した場合に、適切な SG ポリシーが適用されない場合がある事象を改善しました。
- FileShell サーバーにて、Azure RMS からラベル／権利ポリシーを取得する際に、その通信の一部が TLS1.0 でおこなわれる場合がある事象を改善しました。
- FileShell サーバーのサーバーインストーラーで、リモートホスト(インストーラーを実行したホスト以外のホスト)上にデータベースを構築する設定にてインストールをおこなった場合に、データベースの構築に失敗する事象に対応しました。

■ V6.2 Release 1 から V6.2 Release 2 (クライアント Ver. 6.2.49.20031、 SDK Ver. 6.2.15.20031、プロテクタ for NIAS Ver. 6.2.12.20031)

- FileShell クライアント、FileShellSDK、およびプロテクタ for NIAS にて、AzureRMS を使用しない環境で、マルチデバイス形式で保護されたファイルが 保護ファイルとして認識されない事象を改善しました。
- FileShell クライアントにて、オンプレミスの ADRMS を利用している環境で、暗号化形式が AES256 で保護された FileShell 形式のファイルを開くことができない場合がある事象を修正しました。

■ V6.1 Release 2 から V6.2 (クライアント Ver. 6.2.47.19805、 クライアント API Ver. 6.2.7.19034、SDK Ver. 6.2.13.19805、サーバー Ver. 6.2.86.19845、プロテクタ for NIAS Ver. 6.2.11.19805、ログ収集 Ver. 6.2.6.19702、NEC File Protection Edition Ver. 6.2.7.19672、画像ビューアー Ver. 6.2.3.19672)

- クライアント設定ツールの画面が表示されない場合がある事象を修正しました。
- クライアント設定ツールの CPU が高負荷となる場合がある事象を修正しました。
- デジタル署名が設定された、ラベルで分類／保護された PDF ファイルを保存しようとした際に、再保護に失敗し、出力ファイルが破損する場合がある事象を修正しました。

■ V6.1 Release 1 から V6.1 Release 2 (クライアント Ver. 6.1.39.19081、 クライアント API Ver. 6.1.5.18990、SDK Ver. 6.1.14.19081、プロテクタ for NIAS Ver. 6.1.16.19081)

- ローカルディスクのルート、または¥¥Server¥Share にアクセス権がないユーザーが、AIP でのラベルによる分類、保護、およびそれらの解除をおこなえない事象を修正しました。
- クライアント API でマルチデバイス形式のファイルを保護解除すると、プロセスが終了しない事象を修正しました。

■ V6.0 Release 2 から V6.1 (クライアント Ver. 6.1.37.18316、 クライアント API Ver. 6.1.2.18212、SDK Ver. 6.1.11.18299、サーバー Ver. 6.1.74.18365、プロテクタ for NIAS Ver. 6.1.13.18299、NEC File Protection Edition Ver. 6.1.10.18231)

- FileShell サーバーの全体管理者ログイン画面にて組織管理者 ID でログインしようとしたとき、動作が不

正となる場合がある事象を修正しました。

- FileShell サーバーのバージョンアップの際、特殊文字を含むパスワードが設定された SQLServer のデータベースに対してアップデートバッチを実行すると、正しくアップデートできない事象を修正しました。
- FileShell サーバーに複数の ID 配布組織が登録されている場合、Ver. 4.0 以前のクライアントからポリシー受信を実施してもエラーとならない件を修正しました。
- FileShell サーバーと AD との接続が切断されているタイミングで、FileShell クライアントからポリシー受信を実施した際、AD と再接続した後もポリシー受信が失敗し続ける事象を修正しました。
- FileShell サーバーにてログバックアップツールを実行した際、ハイフンを含む組織 ID を指定できない事象を修正しました。

■ V6.0 Release 1 から V6.0 Release 2 (クライアント Ver. 6.0.140.17422、クライアント API Ver. 6.0.4.17330)

なし

■ V5.0 から V6.0 (クライアント Ver. V6.0.130.17083、サーバー Ver. 6.0.85.17070、NEC File Protection Edition Ver. 6.0.14.16934)

- FileShell サーバーのバージョンアップにより、共通ポリシーの強制適用設定が意図しない設定となる場合がある事象を修正しました。
- FileShell サーバーにて、Web 管理コンソールの SG ポリシーの「流用」操作が SG ポリシー数の上限を超えていても実行できてしまう事象を修正しました。
- FileShell サーバーにて、「権利ポリシー管理」-「参照」権限がないロールで、Web 管理コンソールにログインした場合でも、SG ポリシーの「インポート」「設定のエクスポート」操作が実行できてしまう事象を修正しました。
- FileShell サーバーにて、Web 管理コンソールのログ解析の検索フィルタにダブルクオートを含む文字列を指定すると入力欄の文字列が消える事象を修正しました。

■ V4.1 から V5.0 (クライアント Ver. 5.0.67.14679、 クライアント API Ver. 5.0.8.14540、SDK Ver. 5.0.28.14545、サーバー Ver. 5.0.176.15091、ログ収集 Ver. 5.0.20.14679、NEC File Protection Edition Ver. 5.0.14.14679、画像ビューアー Ver. 5.0.11.14576)

- FileShell サーバーにて、データベースサーバーが PostgreSQL の環境で、Web 管理コンソールのログ解析画面で検索フィルタに「%」、「_」を含む文字列を指定した場合に期待した検索結果にならない事象を修正しました。
- FileShell サーバーにて、外部公開用組織のユーザー管理でメールアドレスの重複チェックが正しく動作せず、重複したメールアドレスを登録できてしまう問題を修正しました。
- FileShell サーバーにて、外部公開用組織で、クライアントのワンタイムパスワード発行要求時に大文字を含むメールアドレスを指定した場合に、ワンタイムパスワードの発行が行われない問題を修正しました。
- FileShell サーバーにて、Web 管理コンソールにポリシー管理者でログインした場合に、自身の管理対象 SG 以外の SG ポリシー(外部公開用)が表示されてしまう事象を修正しました。
- FileShell サーバーの旧バージョンから V4.1 にバージョンアップする際に、インストールガイドに従い、ポリシー格納用データベース、および、ログ格納用データベースのアップデートを行うと発生する以下の問題を修正しました。
  - 複数ドメインで運用を行っている場合に、各組織(ドメイン)に複製される共通ポリシーに設定された権利ポリシーテンプレート数が異なる場合がある。
  - Web 管理コンソールに全体管理者でログインした状態であるにも関わらず、追加した組織の削除ができない。
  - FileShell クライアントからのログ収集が正常に行えない。
  - ドメインを 1 つも登録していない状態でポリシー格納用データベースのアップデートを行うと、DB 定義が不正となり、FileShell Server ConsoleService の起動に失敗する。

- アップデート後の各組織(ドメイン)のロールに不適切な権限が設定される。
- アップデート後の各組織(ドメイン)のライセンス情報に不適切な権限が設定される。
- ドメインルートに対して SG ポリシーを作成した場合、その SG ポリシーに設定した手動保護ポリシーが、クライアントで表示されない。
- Web 管理コンソールから[オプション]-[データベースのクリーンアップ]を実行した際、ID 配布組織で不要なデータが一部残る場合がある。
- FileShell SG ポリシーに設定した RMS 権利ポリシーテンプレートの内容を更新した後、Web 管理コンソールから[オプション]-[権利ポリシの妥当性確認]の[取得]ボタンを押下しても、差分が表示されない場合がある。

- FileShell サーバーにて、Web 管理コンソールのログ解析画面からエクスポートした CSV ファイルのヘッダーのカラム内容が不正になる問題を修正しました。
- FileShell サーバーにて、Web 管理コンソールの接続クライアント状況確認の利用状況一覧表示で、ライセンス違反表示の列が消えてしまうことがある問題を修正しました。
- FileShell クライアントにて、Temp フォルダー内に一時ファイル「OFWxxxx.tmp」が 65536 個以上存在する場合に Office2003 形式ファイルが保護できない事象を修正しました。
- FileShell クライアントにて、Office ファイルの保護/保護解除の内部処理を変更しました。
- FileShell クライアントにて、ポリシー受信後、メンテナンスタブの表示状態が正しくない場合がある事象を修正しました。

■ V4.0 Release 2 から V4.1 (クライアント Ver. 4.1.128.11030、クライアント API Ver. 4.1.3.9764、SDK Ver. 4.1.45.10925、サーバー Ver. 4.1.97.11068、ログ収集 Ver. 4.1.19.9932、プロテクタ for NIAS Ver. 4.1.42.10933、NEC File Protection Edition Ver. 4.1.10.11030)

- Web 管理コンソールの[拡張]タブー[拡張設定]で、レジストリの名前を設定する際、コロン(:)が設定できない問題を修正しました。
- Internet Explorer において、[プログラム]タブが表示されない場合がある点を改善しました。
- FileShell クライアントのインストールにより、システムのメモリ使用量が増加していく事象を修正しました。

■ V4.0 Release 1 から V4.0 Release 2 (クライアント Ver. 4.0.155.7988、NEC File Protection Edition Ver. 4.0.6.7505)

- Windows 10、および Windows Server 2016 のメモ帳において、ファイル保存操作時の動作を改善しました。
- 保護ファイルをアプリケーションから開き、アプリケーションからのファイル保存の際に、空き領域不足等によりエラーとなった場合、以下の動作となるように修正しました。
  - 編集前ファイルのバックアップと、編集中のファイルを「エラーになった日時のフォルダー」に退避するようにしました。
    - ＊ 保護ファイルを標準対応アプリケーションで開いた際、バックアップのために保護ファイルのコピーが発生するため、従来バージョンと比較して、ファイルを開く時間が増加します。
    - ＊ 共有フォルダー上の保護ファイルを標準対応アプリケーションで開いた際、バックアップのために保護ファイルがローカルディスクにコピーされるため、ネットワーク通信量が増加します。
  - エラー後に、アプリケーションからの「名前を付けて保存」で他の場所にファイルを保存できるようにしました。
- 手動保護時に右クリックメニューから表示した 権利ポリシーを選択する 画面にて、権利ポリシーを選択すると説明欄に権利ポリシー名が表示される事象に対応しました。

■ V3.2 から V4.0 (クライアント Ver. 4.0.152.7648、サーバー Ver. 4.0.0.7653、ログ収集機能 Ver.4.0.5.7648、

SDK Ver. 4.0.43.7646、クライアント API Ver.4.0.3.7615、NEC File Protection Edition Ver. 4.0.5.7505、プロテクタ for NIAS Ver. 4.0.18.7648、画像ビューアー Ver. 4.0.13.7600)

- FileShell クライアントで、一部のアプリケーションでファイルの保存の際、ファイル保護時に作成される一時的なバックアップファイルが作成されず、稀に保護動作が何らかの理由で異常終了した際、ファイルの復旧ができない場合がある事象に対応しました。
- FileShell クライアントで、対象アプリケーションを使用して 0 バイトのファイルを保存した際に、ファイルが保護されず不正な状態となる場合がある事象に対応しました。
- FileShell クライアントで、Office の形式と異なる拡張子の Office 文書ファイルを保護した場合に、「ファイルが壊れています」というメッセージが繰り返しイベントログに記録されてしまう事象に対応しました。
- FileShell クライアントで、共有フォルダーの自動保護機能で、以下の条件に全て合致したときに自動保護プロセスが異常終了し、OS のアプリケーションエラー画面が表示される場合がある事象に対応しました。
  - 共有フォルダー保護の保護対象フォルダーを「ドメイン指定」している。
  - 端末が WORKGROUP に所属している。
  - 保護対象ファイルが存在するサーバーのコンピュータ情報の取得ができたり、できなかったり不安定な状態になっている。
- FileShell クライアントで、ポリシー受信に成功した際に出力されるイベントログ(ID:170 ポリシー受信成功)、および受信済みポリシーの削除に成功した際に出力されるイベントログ(ID:172 ポリシー削除成功)がログ収集機能にて収集されず、FileShell サーバーのログ解析で表示されない事象に対応しました。
- FileShell クライアントで、複数の端末から同時に同じファイルを保護しようとした場合、ファイルが 2 重に保護される場合がある事象に対応しました。
- FileShell クライアントで、下記の設定項目において、各設定の許容を超えた文字数(259 文字)のパスが入力可能な状態になっていた事象に対応しました。
  入力可能な上限値は、247 文字までに変更しました。
  - [自動保護対象フォルダ追加]画面
    - フルパス指定
  - [自動保護除外フォルダ追加設定]画面
    - フルパス指定
  - [保護解除を許可するフォルダ]画面から表示される保護解除を許可するフォルダ
    - フルパス指定
  - [共有保護対象フォルダ追加]画面
    - UNC パス
  - [共有フォルダ保護除外フォルダ追加設定]画面
    - UNC パス
  - [共有フォルダ保護解除を許可するフォルダ]画面から表示される共有フォルダー保護解除を許可するフォルダ
    - UNC パス
  - [巡回保護ツール設定の対象フォルダ編集]画面
    - フルパス指定
  - [除外フォルダ編集]画面
    - フルパス指定
- FileShell クライアントで、クライアント設定の[権利ポリシテンプレート管理]画面において、権利ポリシーテンプレートを選択し右クリックした際に表示されるメニューのショートカットが、[プロパティ(R)]と[削除(R)]で重複していた事象に対応し、[削除(D)]に変更しました。
- FileShell クライアントで、メンテナンス機能が無効の環境で FileShell サーバーからポリシーを受信したり、FileShell 設定ファイル(.fsconf)などでメンテナンス機能を有効にするポリシーを適用した場

合、またはその逆(有効から無効)の場合、タスクトレイの FileShell メニューで「更新の確認」項目の表示が反映されない場合がある事象に対応しました。

- FileShell クライアントで、メンテナンス機能を使用した際、クライアント本体のメジャーアップグレード後に後続のアップグレードモジュールのセットアップがエラーとなる事象に対応しました。
- FileShell クライアントで、FileShell で保護されたファイルに表示される鍵アイコンが表示されない場合がある事象に対応しました。
- FileShell サーバーのユーザー管理機能で、メールアドレスの「@」以降にハイフン(-)が入力できない事象に対応しました。
- FileShell サーバーで、Windows PowerShell から Azure Rights Management Administration Tool (AADRM)をインストールした場合、Web 管理コンソールの[権利ポリシ設定] - [接続情報設定]画面でパスワード認証が選択できない場合がある事象に対応しました。
- FileShell サーバーで、AD との接続が切断状態となった際に行われる定期的な接続確認および再接続動作が正常に動作せず、FileShell サーバーと AD との接続を必要とする FileShell クライアントのポリシー受信要求が失敗する場合がある事象に対応しました。
- Web 管理コンソール画面の操作に伴う処理で、DB 応答の遅延などによりログインセッションがタイムアウトしたときに、コンソールサービスが解放済みのログインセッションを参照してしまい、サービスダウンとなる場合がある事象に対応しました。
- FileShell サーバーで、ログ削除時に下記のサーバログが出力されない場合がある事象に対応しました。
  - FileShell ポリシ受信履歴を削除しました。
  - 収集した FileShell イベントログを削除しました。
  - 収集した FileShell 利用者情報を削除しました。
  - 収集した FileShell マシン情報を削除しました。
  - 収集した FileShell ポリシ情報を削除しました。
- FileShell サーバーで、FileShell サーバー サービスの新規インストールの際、各サービスのポート番号に 65535 を超える数値を設定できてしまう事象に対応しました。

■ V3.1 Release 3 から V3.2 (クライアント Ver. 3.2.179.6305、サーバー Ver. 3.2.0.2885、ログ収集機能 Ver. 3.2.18.5992 、SDK Ver.3.2.50.6157、クライアント API Ver. 3.2.15.6001)

- FileShell クライアントで、FileShell ポリシーを更新した場合に、一時解除フォルダーの設定が正しく削除されない場合がある事象に対応しました。
- FileShell クライアントで、同一マシンに複数ユーザーが同時にログインして利用する環境で、自動保護対象フォルダー配下で一時保護解除したファイルが、FileShell ポリシーで指定した[保護ファイルの一時解除後の再保護間隔]ではなく、[ファイル更新の検出による自動保護間隔]で再保護されてしまう事象に対応しました。
- FileShell クライアントで、C ドライブ直下に"Program"というファイルがあった場合に、次の機能が動作しない事象に対応しました。
  - ポリシー更新
  - キャッシュ作成
  - アクセス権限の確認
  - 権利ポリシーを選択する
- FileShell クライアントで、ユーザー定義アプリケーションに Microsoft 社製「Visual Studio Code」を登録している場合に、「Visual Studio Code」で保護済みファイルを編集・保存すると、ファイルの内容が消える事象に対応しました。
- クライアント設定ツールで、FileShell ポリシーの手動保護設定をインポートすると、保存時にエラーが表示される場合がある事象に対応しました。
- FileShell クライアントで、Windows10 で、ごみ箱($Recycle.bin)を自動保護対象に設定した場合に、保護対象拡張子のファイルを削除すると、ごみ箱から元に戻せなくなる事象に対応しました。
- FileShell クライアントで、巡回保護対象のフォルダー内にアクセスできないフォルダーが存在する

場合に、巡回保護が中断してしまう場合がある事象に対応しました。

- FileShell クライアントのインストール時に、OS により「エラー 1920」が表示されインストールが失敗する場合がある事象に対応しました。
- FileShell クライアントで、デジタル署名を付与した Office2003 形式のファイルを保護した場合、デジタル署名が削除される場合がある事象に対応しました。
- FileShell クライアントで、ファイル保護に AES256 を使用する設定となっている場合、ファイルの「アクセス権限の確認」画面に EUL の有効期限が表示されない事象に対応しました。
- FileShell クライアントを FileShell サーバーを構築しない環境で運用の際、2 回目以降にインポートしたポリシーの自動保護設定や共有フォルダー保護設定が正常に適用されない(前回の保護対象フォルダーが残ってしまう)場合がある事象に対応しました。
- FileShell クライアントで、MSIPC の仕様変更により、マルチデバイス形式で保護されたファイルの保護解除が、権利ポリシーテンプレートで「抽出」の権限を保有しているユーザーでも実行できてしまう事象に対応しました。
- FileShell クライアントおよび FileShell SDK で、ポリシー設定が作成者フルコントロール、かつ ANYONE フルコントロールの時、作成時の EUL が有効とならない場合がある事象に対応しました。
- RMS サーバーの権利ポリシーテンプレートのプロパティで、「エクスポートを有効にする」が有効になっている場合、FileShell サーバーの Web 管理コンソールから権利ポリシーテンプレートを作成すると、実際には作成されているにもかかわらず、作成失敗のエラーメッセージが表示される場合がある事象に対応しました。
- FileShell サーバーおよび AD サーバーで下記の操作を行った場合、クライアントにポリシーが配信されない場合がある事象に対応しました。
  - FileShell サーバーの再インストールを行い、「ログ収集機能を使用する」から「ログ収集機能を使用
    しない」に設定を変更した。
  - ドメインの共通ポリシーを更新日時が同一の別の共通ポリシーに変更した。
  - 更新日時が同一の異なる SG ポリシーが設定されている別の OU にユーザーを移動した。
- FileShell サーバーのトレースログの出力パスにアクセス権がない場合、Web 管理コンソールにログインできない場合がある事象に対応しました。
- FileShell サーバーの Web 管理コンソールから、ユーザー権限にユーザーおよびグループを登録する際、「権利ポリシーテンプレートにメールアドレスの先頭、中間および末尾に全半角スペースが含まれている」など形式が不正なユーザーおよびグループを登録しようと場合にエラーメッセージが表示されない場合がある事象に対応しました。
- FileShell サーバーの Web 管理コンソールで、「ログ解析」の「FileShell マシン情報」について、「バックアップデータ」にのみ含まれる FileShell クライアントバージョンを検索・グラフ表示できない事象に対応しました。
- FileShell サーバーの Web 管理コンソールで、[FileShell SG ポリシー一覧]画面から SG ポリシーをインポートし、新規作成した場合、SG 管理者が設定されない事象に対応しました。
- FileShell サーバーで、権利ポリシーテンプレートにて、「所有者(作成者)に無期限のフルコントロールの権利を付与する」設定を無効としていた場合、その権利ポリシーテンプレートの権限等を RMS サーバーにて変更した場合、権限変更前に保護したファイルの権限等にその変更が反映されない件に対応しました。
- FileShell サーバーで、共通ポリシーまたは SG ポリシーをエクスポートし、再度インポートすると、ポリシーに設定されている権利ポリシーテンプレートの設定を更新しても、Web 管理コンソールの[オプション] - [権利ポリシの妥当性確認]で RMS サーバーとの差分を検知しない場合がある事象に対応しました。
- FileShell サーバーで Azure の SymmetricKey 認証を使用時に、権利ポリシーテンプレートの識別情報にブラウザの表示言語が設定されていない場合、[権利ポリシ管理]画面の[RMS サーバから取得した権利ポリシーテンプレート一覧]に表示されない場合がある事象に対応しました。
- FileShell SDK で、Azure RMS 利用時にローカル権利ポリシーを使用してファイルの保護を行うと

保護ができなくなる場合がある事象に対応しました。

■ V3.1 Release 2 から V3.1 Release 3 (クライアント Ver. 3.1.96.5437、サーバー Ver. 3.1.1.2762、SDK Ver. 3.1.24.5402)

- FileShell クライアントおよび FileShell SDK で、Excel 5.0 モジュールシートを含む Excel ファイルを保護しない(レジストリ設定「ExcludeFileConf」の値に 0x02 を含む)ように設定した場合、Excel 5.0 モジュールシートを含まない xlsb ファイルが保護されない事象に対応しました。

  ＊ レジストリ設定「ExcludeFileConf」については、『インストールガイド』の「インストール設定ファイルの作成」または、『FileShell SDK 利用ガイド』の「Office アプリケーションで保護できない形式のファイルを、FileShell でも保護しない設定」の項目をご参照ください。

- FileShell クライアントおよび FileShell SDK で、AES256 を使用して保護(暗号化)したファイルについて、保護する前のファイルサイズが 4096 の倍数であった場合に、保護解除できない事象に対応しました。
- FileShell SDK で、Azure RMS を利用して保護を行う際、使用開始から 1 ヵ月経過すると保護が行えなくなる事象に対応しました。
- FileShell サーバーを V2.1 から本バージョンへアップグレードした後に共有フォルダー保護ポリシーを追加した場合、V2.1 クライアントに対して一部の共有フォルダー保護ポリシーが適用されない場合がある事象に対応しました。
- FileShell サーバーで、ポリシーの拡張設定のレジストリのサブキー名が設定されていない場合、指定したキー名直下にレジストリが適用されない事象に対応しました。
- FileShell サーバーで、MS DTC のアクティブトランザクションが増加し続け、クライアントから ログ送信ができない場合がある事象に対応しました。
- 「Web 管理コンソールからの SG ポリシー登録」と「FileShell クライアントからのポリシー更新」が同時に行われた場合、SG ポリシー登録とポリシー更新に時間がかかり失敗する場合がある事象に対応しました。
- ログ解析の際、以下の組合せで検索を行うと、該当ログが存在するにもかかわらず、検索結果が 0 件と表示されることがある事象に対応しました。
  - ログ種類:ポリシー受信履歴
  - 受信結果:「失敗」を選択

■ V3.1 Release1 から V3.1 Release 2(クライアント Ver. 3.1.90.4892)

- 保護したファイルの権限が作成者フルコントロールかつキャッシュ無効のとき、MSDRM の EUL が埋め込まれない場合がある事象に対応しました
- 保護されたファイルを開いたまま、別のアプリケーションで同じファイルの容量が小さくなるよう変更、保存し再度開きなおすと、ファイルの末尾に不要な情報が表示されてしまうことがある事象に対応しました。
- クラスタ構成で運用されている FileShell 用データベースサーバーがマスタからスレーブに切り替わった場合、FileShell サーバーがクライアントから受信したログをスレーブ側の FileShell 用データベースサーバーに送信できない場合がある事象に対応しました。
- 保護したい文書を選択し、右クリックメニューで表示される InfoCage FileShell メニューから[保護]-[権利ポリシーを選択する]を指定した際に、文書の保護に失敗する場合がある事象に対応しました。
- [アクセス権限確認画面]に表示された[ファイルの有効期限]内でも、文書の保護解除が行えない場合がある事象に対応しました。

■ V3.0(クライアント Ver. 3.0.262.4183、ログ収集機能 Ver. 3.0.31.4217)から V3.1 Release1

- クライアント設定ツールの手動保護メニューで、長い権利テンプレート名(259 バイト)を変更し、設定を適用すると、FileShell の右クリックメニューが表示できなくなる場合がある事象に対応しました。
- FileShell クライアントで、ポリシーインポート後、巡回ツールが起動した際にエラーとなる場合がある事象に対応しました。
- FileShell SG ポリシーの設定出力で[対象ユーザ]が出力されない場合がある事象に対応しました。
- [共有フォルダ保護]の対象フォルダーとして設定されている共有フォルダー上で、ファイルのコピーを行った時にコピーされたファイルが自動保護されない場合がある事象に対応しました。
- 保護または保護解除時に、エクスプローラー上のファイルが表示されなくなる場合がある事象に対応しました。
- ログ収集機能のログバックアップツールで、FileShell ログ収集オプションのログを V3.0 の形式に変換できない事象に対応しました。
- ログ DB の断片化解消用の SQL ファイル「Rebuild_index_log.sql」が、Microsoft SQL Server の Standard および Business Intelligence で動作しない事象に対応しました。
- 以下の条件を全て満たす場合、キャッシュ作成機能を利用するとエラーとなる事象を修正しました。

  ＊ FileShell のキャッシュ作成機能において、Office2010 で有効な使用ライセンスを作成する設定(デフォルト無効)を有効としている。

  ＊ 1 つのログオンアカウントにて、複数のアカウントで RMS を利用し、有効期限の切れた RMS の証明書情報(GIC あるいは CLC)が 2 つ以上生成されている。

■ V3.0 から V3.0(クライアント Ver. 3.0.262.4183、ログ収集機能 Ver. 3.0.31.4217)

- FileShell ポリシーにて、「FileShell 利用者情報」のログ送信を行う設定([FileShell ポリシ]-[拡張設定]-[ログ送信]-[FileShell 利用者情報]のチェックが ON)であり、かつ、クライアントにローカルアカウントでログオンしている場合、クライアントのログ収集機能がエラーとなる事象を修正しました。

■ V2.1.0 Release4(クライアント Ver. 2.1.0.30、サーバーVer. 2.1.0.8、SDK Ver. 2.1.0.4) から V3.0

- 自動保護の対象フォルダーとして「＊」を使用した場合に、保護されない場合がある事象に対応しました。
- 巡回保護対象フォルダーに「＊」を使用した場合に、意図せず保護されてしまう場合がある事象に対応しました。
- 巡回保護対象として指定したフォルダーに対して、実行ユーザーにアクセス権がないと保護処理が停止する事象に対応しました。

- 自動保護または共有フォルダー保護が断続的に処理される場合、巡回保護処理が一時停止した状態が継続し、巡回保護処理が停止したように見える事象に対応しました。
- OS が認識できないような壊れたファイルに対して保護をおこなったとき、OS のエラーメッセージが表示され FileShell が強制終了される場合がありましたが、エラー発生時の処理を追加(※)し強制終了しないように対応しました。(※ユーザーにはエラーとなったファイルパスがバルーンで通知されます)

■ V2.1.0 Release3 から V2.1.0 Release4(クライアント Ver. 2.1.0.30、サーバーVer. 2.1.0.8、SDK Ver. 2.1.0.4)

- FileShell クライアントのユーザーID(メールアドレス)に「*」(アスタリスク)を含む文字列を指定、かつクライアントからのポリシー受信要求の処理において、ユーザーID を使用して AD 検索を行ったタイミングで検索結果に該当するアカウントが増加した際に、FileShell Server Service がアプリケーションエラーとなる事象に対応しました。
- 読み取りパスワード付き Office2007 形式ファイルを FileShell で保護した場合に、通常存在するストリーム(¥006DataSpaces¥DataSpaceInfo¥StrongEncryptionDataSpace)が欠落する事象に対応しました。(ストリームが欠落したファイルを使用した場合でも、Office での動作不正は報告されていません。)
- FileShell クライアント V2.1.0.28 を使用した場合に、ユーザー定義アプリケーションとして設定したアプリケーションが正常に動作しない場合がある事象に対応しました。(発生事例:Microsoft Excel 2013 をユーザー定義アプリケーションに設定した状態で、Excel 上で空白のブックを新規作成するとエラーとなり、作成できない。)

■ V2.1.0 Release2 から V2.1.0 Release3(クライアント Ver. 2.1.0.28、サーバー Ver. 2.1.0.7)

- ビルトイングループ名を変更していると、FileShell プロセスが起動しない事象に対応しました。
- 日本語以外の環境(英語、簡体字、繁体字)で、Azure 連携機能を利用する時、AD RMS Client 2.1 がインストールされていない場合のエラーメッセージに、エラー内容の文字列が表示されない事象に対応しました。
- 32bit OS 上で Secure Boot を有効にしていると、自動保護および共有フォルダー保護が動作しない事象に対応しました。
- 共有フォルダー保護機能の保護対象フォルダーに設定したフォルダーの上位フォルダーにアクセス権限が無い場合、自動保護対象のファイルをコピーしても、自動保護が動作しないことがある事象に対応しました。
- Windows Server 2012 以降のファイルサーバーで、データ重複排除機能を有効にしたボリューム上のファイルを保護できない事象に対応しました。
- Azure RMS 連携による利用時に、64bitOS 上の x86 アプリで保護ファイルを開けないことがある事象に対応しました。
- Adobe Reader X, XI 利用時、アクセス権が「閲覧」のみ可の PDF にて「モデルツリー」の内容が XML、CSV ファイルに書き出されてしまう事象に対応しました。
- FileShell サーバーの Web 管理コンソールのオプション機能である[サーバ設定の出力]機能にて、FileShell SG ポリシー設定を出力した場合に、登録されている SG ポリシーが重複して表示されることがある事象に対応しました。

■ V2.1.0 Release1 から V2.1.0 Release2(クライアント Ver. 2.1.0.20、サーバー Ver. 2.1.0.6)

- ネットワークフォルダー上で Excel ファイルを上書き保存できない場合がある事象を軽減しました。
- Adobe Reader で、保護モードを有効にしたまま利用した場合、エクスプローラー上で、保護 pdf ファイルにマウスを近づけただけで、pdf ファイルを開いた旨のバルーン表示とイベントログが出力される事象を改善しました。
- Adobe Reader XI の特定バージョンで、保護モードを有効にしたまま利用した場合、Adobe Reader での保護ファイルの閲覧、印刷に関するログが出力されない事象に対応しました。

- 標準対応アプリケーションでメール送信操作が禁止されない事象に対応しました。
- FileShell サーバーを再起動直後に、タイミングにより、ポリシー受信でドメインへのアクセスエラーが発生する事象に対応しました。
- FileShell サーバーのサービス停止時に、例外が発生する場合がある事象に対応しました。
- FileShell サーバーのポリシー受信処理で、ドメインへのアクセスエラーが発生した場合に、ドメインへのアクセスが可能になった後も、ポリシー受信処理が可能にならない事象に対応しました。
- FileShell サーバーの Web 管理コンソールによる共通ポリシーの編集操作において、[外部連携]タブを一度開いた後、[運用]タブ以外でポリシー登録を実施した場合に、[共通ポリシの設定を SG ポリシへ強制適用する]の設定に関わらず、共通ポリシーの設定が SG ポリシーへ強制適用される事象に対応しました。

■ V2.0.2 から V2.1.0 Release1

- FileShell インストール先の Office2003 形式のテンプレートファイルが保護された場合に、Office2003 形式ファイルの保護解除ができなくなる事象に対応しました。
- 保護・保護解除時に一時ファイル名の作成処理でエラーとなり、保護・保護解除が失敗する場合がある、という事象に対し、リトライ処理を行うことで発生頻度を軽減できるよう対応しました。
- 保護対象拡張子として、「XXXX.*」(XXXX は任意)を指定している場合に、ドットから始まるファイル名のファイルが保護対象となる事象に対応しました。
- FileShell クライアントをアップデートした後、マシン再起動をせずに使い続けていると、アプリケーションが頻繁に異常終了する事象を軽減しました。

■ V2.0.1 から V2.0.2

- FFRI 社の yarai 製品と共存した環境で、稀に Office アプリケーション終了時にエラーが発生する事象に対応しました。
- ユーザーID 管理ツールにて、URL 部分の設定が足りない場合に設定変更ができなくなる問題を修正しました。
- ユーザー定義 AP で、保護ファイルをオープンせずに取得した場合に、そのファイルの保存時に二重に暗号化される場合がある事象に対応しました。
- 保護/保護解除時のファイルアクセス方法を変更することにより、ファイルアクセス競合による共有違反エラーの発生を軽減しました。
- Office2010 のヘルプ画面でプロダクト ID が表示されない場合がある事象に対応しました。

■ V2.0.0 から V2.0.1

- FileShell クライアントにおいて、巡回保護中に他の作業ができるよう、フォーカスを移動可能にしました。
- FileShell クライアントにおいて、巡回保護中にファイル更新(作成、編集、コピー等)が行われた場合に、一部のファイルが保護されずにスキップされる場合がある問題を修正しました。
- FileShell クライアントにおいて、巡回保護ツールでネットワークドライブ上のファイルが保護されないように改善しました。
- FileShell クライアントにおいて、巡回保護ツールでネットワークドライブ上のファイルが保護されないように改善しました。
- FileShell クライアントにおいて、自動保護の対象として指定されていたフォルダーがネットワークドライブだった場合に、自動保護が行われないにも関わらず、そのフォルダー上で保護解除ができない問題を修正しました。
- FileShell クライアントにおいて、保護時のログに、使用した権利ポリシーテンプレート名を表示する

よう改善しました。

- FileShell クライアントにおいて、IcfAgent の起動ログに、InfoCage FileShell のバージョンが表示されるよう改善しました。
- FileShell クライアントにおいて、IcfAgent の終了ログを出力するよう改善しました。
- FileShell クライアントの導入環境で、Microsoft Exchange 連携を行っていた場合に以下の操作を行うとアプリケーションがアボートする等の不正動作となる問題を修正しました。
  - Word、Excel、PowerPoint からの Outlook への添付
  - FileShell のユーザー定義 AP で指定したアプリケーションからの Outlook への添付
  - エクスプローラーの右クリックメニューから、[送る]-[メール受信者]を実行
- FileShell クライアントのセットアップログについて、前回のログが残っていた場合に上書きしないように対応しました。
- FileShell で保護を行った場合、権利ポリシーテンプレートで「所有者（作成者）に無期限のフルコントロールの権利を付与する」が外されている、かつ、「コンテンツを利用するたびに新しい使用ライセンスを要求する（クライアント側のキャッシュを無効にする）」が付与されている場合は、保護ファイル内に作成者の使用ライセンスのキャッシュを埋込まないように修正しました。
- 巡回保護ツールにおいて、アスタリスク「*」指定のパスが対象となるよう改善しました。
- 利用者の所属グループ数が多い場合のポリシー受信性能を改善しました。
- Web 管理コンソールにおいて、RMS サーバーに登録されている権利ポリシー一覧を表示する画面の表示性能を改善しました。
- Web 管理コンソールの表示項目を昇順にソートして表示するよう改善しました。
- AD 上でメールアドレスを変更したドメインアカウントでログオンした状態で、FileShell で設定したメールアドレスを変更せずに利用した場合に、RMS アカウント証明書が古いメールアドレスで作成され続け、不要な RMS アカウント証明書が増えていくという問題を修正しました。

■ V1.1.3 から V2.0.0

- FileShell クライアントにおいて、64bitOS で利用していた場合に、ポリシー更新成功時にポリシー更新成功のイベントログが出力されない問題を修正しました。

■ V1.1.2 から V1.1.3

なし

■ V1.0.3 から V1.1.2

- 手動保護ポリシーが登録されていないとき、右クリックメニューの保護解除および権限参照が行えない問題を修正しました。
- FileShell クライアントで、読み取りパスワードが設定されている Office2007 形式のファイルが、保護されていないにも関わらず、保護化状態を示すアイコンが表示され、右クリックメニューに保護解除のメニューが表示される問題を修正しました。
- FileShell クライアントで、ドメインログオンしているユーザーのアカウント名と、AD 上に登録されているユーザーのメールアドレスのローカル部(@前までの文字列)が異なる場合、保護ファイルのオープン／保護／保護解除等の実行時に不要な認証画面が表示される問題を修正しました。

9. 注意・制限事項

注意・制限事項については、各マニュアルの「注意事項」をご参照ください。

InfoCage FileShell Ver 6.3
リリースメモ

NEC ソリューションイノベータ株式会社

東京都江東区新木場一丁目 18 番 7 号
TEL(03)5534-2222 (代)

Copyright© NEC Solution Innovators, Ltd. 2021-2023.

NEC ソリューションイノベータ株式会社の許可なく複製・改変等を行うことはできません。